

3. 都市基盤整備の方針

(1) 過年度検討結果におけるポイント

過年度調査や学識者の知見等について以下に整理した。

1) H23 普天間飛行場跡地利用方針策定調査報告書

(広域緑地(普天間公園等)検討委員会編)(2012(平成24)年3月 沖縄県 宜野湾市)
同調査報告書において示された機能配置方針や都市機能との連携イメージ、コンセプト(案)を以下に整理した。

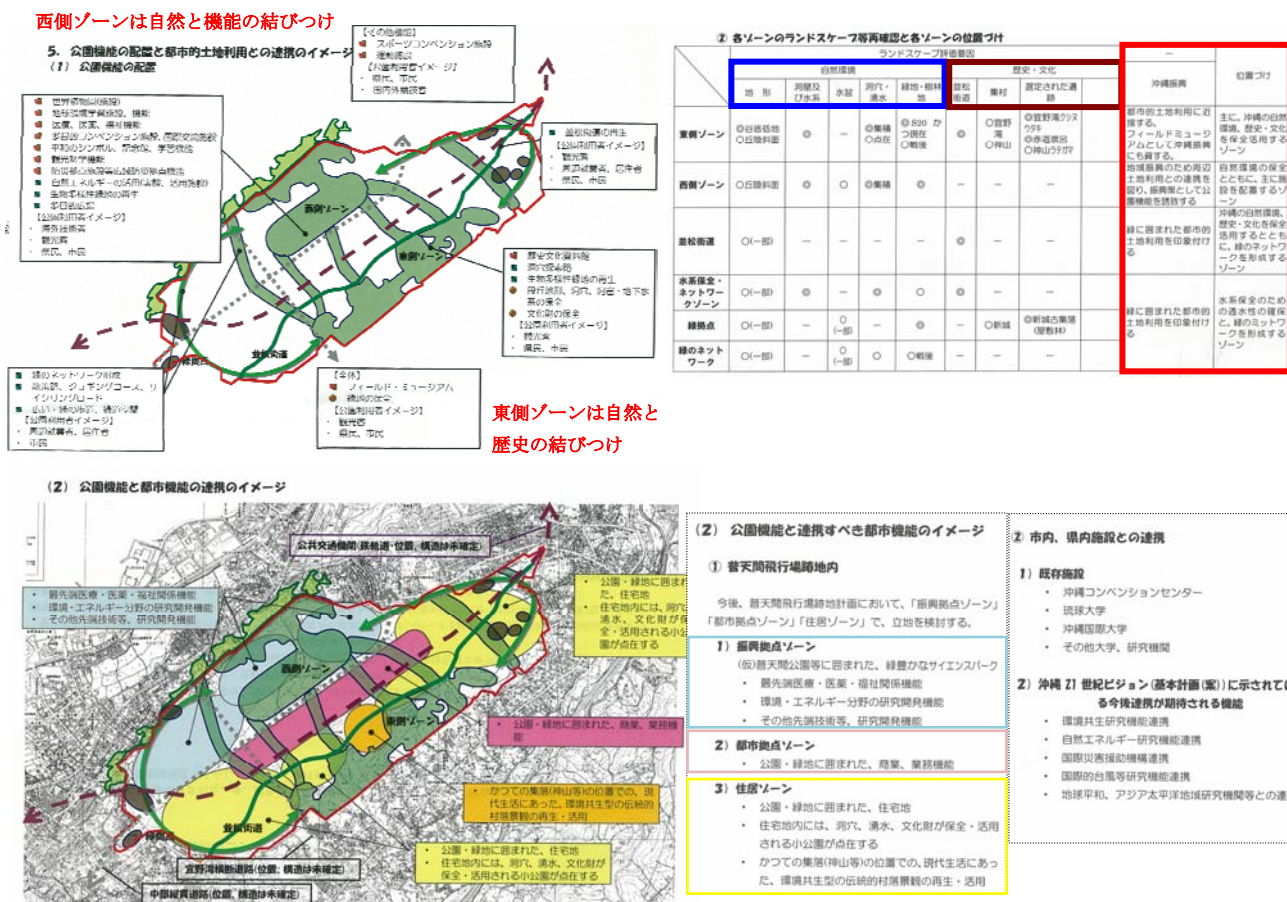


図 2-43 広域緑地の機能配置方針や都市機能との連携イメージ

- ・ 緑地のコアゾーンを2つに分け、東側は自然と歴史、西側は自然と機能配置で特色を出す。
- ・ ウタキ等の遺跡群と水盆をつなぎ、地下水脈を保全する横断方向の緑の軸
- ・ 並松街道や斜面緑地による縦断方向の軸

● 広域緑地（普天間公園等）の整備コンセプト（案）と基本方針提示内容

■ コンセプト（案）

**亜熱帯島しょ海洋性気候に育まれた、水、緑を保全・再生するとともに、
歴史の中で培われてきた文化を復元・継承し、
新たな環境共生のくらしと“イチャリバチョーデー”（多文化共生）の心を世界に発信する**

■ コンセプトの考え方

普天間飛行場は、沖縄戦で集落や農地を接収して建設したもので、以来 60 年余にわたり米軍飛行場として使用されてきた。沖縄中南部都市圏の中央にあり、まわりは密集市街地に囲まれ、宜野湾市の都市構造を歪なものにしているが、都市的ポテンシャルの高いところである。

同飛行場の地域特性は、亜熱帯島しょ海洋性気候の琉球石灰岩台地に位置し、地下には鍾乳洞や地下水脈が発達しているとともに、琉球文化の遺産である埋蔵文化財や沖縄特有の豊かな植生・生態系が数多く残されている。

普天間飛行場の跡地利用は、沖縄県の県土再編並びに宜野湾市の都市構造をリフレッシュする絶好のチャンスであり、広域緑地（普天間公園等）は、平和希求のシンボルの役割を担いつつ、豊かな自然環境、恵まれた水系環境に育まれてきたかつての沖縄らしい環境・歴史・文化を保全、再生、活用し、未来に継承しつつ、新たな持続発展可能な環境共生型の都市づくりを導くものである。

それは、将来の沖縄の生活・振興と融合し、跡地利用と市内・県内の機能連携を図り新たな交流、万国津梁に資する沖縄らしい美ら島づくり、多文化共生の場として整備する。

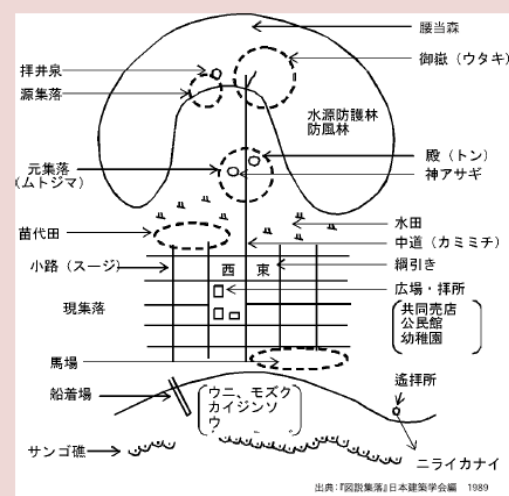
表 2-20 基本方針

自然環境の保全・再生		自然環境と人間の共生		文化財の保全・活用	
<ul style="list-style-type: none"> － 周辺の緑地帯とのネットワークを考慮し、現況の緑地を可能な限り保全・活用するとともに、新たな緑のネットワーク形成に必要な緑地の整備を進める。 － 中南部都市圏における「緑の回廊」の整備につなげる。 － 普天間飛行場の区域内には、琉球石灰岩カルスト台地の段丘地形の縁辺部に多数の洞穴・湧水の分布が確認されており、これら地区固有の自然環境について保全する。 － 沖縄の特徴的な洞穴、洞窟及び地下水系が発達している区域については、これらの保全をするために、その地盤環境に配慮した公園区域を設定する。 － 湧水については、普天間飛行場の区域外にも多数分布しており、本地区がその水源となっているため、その保全にも努める。 － かつての国指定天然記念物であった、琉球王国の宿道である松並木を「琉球歴史回廊」として再生（復元）する。なお、幅員等については、往時の規格に必ずしもこだわらず、時代にふさわしいものにする。 － 自然環境の保全、復元・再生により、時間とともに風景や景観の価値が高まる「価値向上型のまちづくり」を、公園緑地の整備によって推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> － 腰当森（クサテムイ）や屋敷林を持つ、戦前までの伝統的村落景観の集落構造を踏まえ、環境と共生した安全・安心のまちづくり（自然環境と都市の融合）を公園緑地の整備によって推進する。 － 再生可能エネルギー等の循環型社会形成をリードする環境技術の開発・活用の場を提供し、「低炭素島しょ社会」の実現を推進する。 － 基地返還跡地に残る自然緑地を可能な限り保全・活用し、緑豊かな都市環境の創出を図り、都市地域における周辺と人間の共生環境の再生に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> － 普天間飛行場の区域内には、琉球文化の遺産である貴重な文化財が多数確認されており、その保全・活用を推進する。 － 近世琉球の伝統的な集落跡や御嶽等の文化的景観（村落景観）は、松並木の宿道とあわせて保全・再生することにより、琉球文化と地域住民のアイデンティティの継承に繋げる。 － その一方で、沖縄らしい美しい町並みとして伝統的な村落景観を再生し、観光資源として活用する。 	
国際交流の拠点の形成 (21世紀の万国津梁)	周辺土地利用との連携 (地域振興に資する)	平和希求	広域防災拠点		
<ul style="list-style-type: none"> － 東アジアの中心に位置する優位性を活かし、アジア・太平洋地域等とのヒト・モノ・情報・文化等の交流を促進するため、多くの人が集まるイベント開催が可能な施設を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> － 自然豊かな人々の憩いや交流の空間を創出し、周辺の土地利用に付加価値を与えるため、都市空間と融合した公園として整備する。（自然環境と都市の融合） － 特に、基地返還跡地においては、各種研究機関の集積促進が図られる予定であることから、それら研究機関の活動拠点にふさわしい優れた環境の形成を公園緑地の整備によって推進する。 － また、基地返還を機に、海岸沿いや急傾斜地にある都市機能を津波等のリスク回避にも配慮し、普天間飛行場への再編を検討し、その上で公園緑地との機能連携を図るものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> － 米軍基地の存在やその原因となった戦争及び接収の歴史を伝え、これからの平和について学習する施設を設置し、平和を尊ぶ心を醸成し、国際交流による平和協力を推進する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> － 沖縄本島中南部都市圏の広域防災拠点として、地域の避難所や物資補給基地等の機能を整備する。 		

2) 意見交換会（2012（平成24）年度）における関連資料

表 2-21 意見交換会にて示された知見

● 普天間飛行場跡地における「原風景」の再生 高良倉吉 琉球大学法文学部 国際言語文化学科教授	
<p>○ 国営公園の位置づけについて</p> <p>— 首里城の国営公園化の際は、国営沖縄記念公園として海洋博地区と首里城地区に分けることで事業が実施された。</p> <p>— 公園整備で一番大切なことは、その公園がどれくらい活用されるかである。新都心公園は非常に良く利用されている。</p> <p>○ 跡地利用のテーマ・場の演出について</p> <p>— 利用するのは宜野湾市民、県内だけではなく、アジアの人たちで、基地のあった場所でアクティビティが展開していく。21世紀の巨大な村ができる。沖縄の海岸で中国人が泳いだりというのが普通となるようなイメージ。こういった状態を達成することこそがテーマとなる「平和」ではないか。</p>	<p>○ 跡地・公園の位置づけについて</p> <p>— 普天間は沖縄県全体にとっての課題。集落はシマと呼ばれていた生活単位で、全県やアジアを視野に入れたテーマともなりうる。</p> <p>○ 原風景の考え方について</p> <p>— 集落は、琉球王国時代に計画的に作られ、風水説を基本に中国から学び琉球の風土にアレンジした。これを範に、伝統を踏まえつつ、これからの時代に向けた集落を考える視点も重要。赤レンガの竹富島のような世界はイーージーすぎる。</p> <p>— 並松街道は、首里城から王が普天満宮への参詣をする等の全琉球的な道路。</p> <p>— 伝統的な集落の風景は、海側から島を守る浜抱護〔防潮林〕、シマ（集落）全体を囲う村抱護、各屋敷を囲う屋敷抱護と、3つの抱護を重ね合わせることで形成されている。</p> <p>— 高台の普天間、おりて行ったターム、海岸沿いのコンペンションエリアやビーチ、これらの魅力的な要素を活かした連続性のある景観形成が望まれる。</p>



■ 世界と将来を見据えた『普天間公園』等のあり方・イメージについて 稲田純一 (株)ウイン代表取締役	
<p>○ 目標・戦略についての提案</p> <p>— シンガポールのガーデンシティの事例にならい、(仮称) 普天間公園も国への発展に繋がるような、国を巻き込んだ大きな戦略を掲げる。</p> <p>— 環境的には優位性があるため、環境に特化したコンセプトを掲げ、国内で普天間にしか出来ない大きな目標を明確に持った戦略を立てる。</p> <p>○ 環境マネジメントについての提案</p> <p>— これからのまちづくりを考える場合、「環境」が一番大切。(シンガポールと中国の緑と水のトータルネットワークシステムを紹介)、</p> <p>— 普天間は「水」のあり方が重要となるため、排水処理を含めた「水のマネジメント」を行う。(「シンガポール公益事業庁」という機関では、排水処理・再生処理から緑化に至るまで総合的な環境をマネジメント行っている。)</p> <p>○ その他</p> <p>— 学校の校庭の芝生化の推進を行う場合、維持・管理の問題が大きい。「芝生」でなく「草地」であれば維持管理の問題は解消される。</p> <p>— イギリスの校庭は殆どが緑化しているが、景観・快適性ということだけでなく、「屋外の教室」として教育面なドブラスの要素を加えて緑化を推進している。</p>	



(2) 「全体計画の中間取りまとめ」の方針と課題

取組内容の具体化に際し、「全体計画の中間取りまとめ」(2013(平成25)年3月 沖縄県 宜野湾市)における方針及び検討項目について整理した。

1) 計画づくりの方針

計画づくりの方針のうち(仮称)普天間公園に関連する部分について整理した。

3. 緑地空間の整備

1) 広域計画にもとづく(仮称)普天間公園の整備(※P14)

跡地を活用した緑地の拡大、沖縄振興の拠点づくり、広域防災機能の導入等を目標とし、中南部都市圏のセントラルパークとなる(仮称)普天間公園を整備

2) 自然・歴史特性の保全・活用に向けた公園等の整備(※P15)

跡地の特性を活かし、次世代に伝える環境づくりを目標として、自然・歴史特性の保全・活用と連携した公園等を整備



旧集落空間の再生による住宅地

3) 身近な生活の場となる公園等の整備(※P15)

跡地の新しい住宅地の魅力を来住者にアピールするとともに、緑地が不足する周辺市街地からの利用

図 2-44 「全体計画の中間取りまとめ」における緑地空間の整備の方針

※P～は「全体計画の中間取りまとめ」頁数を示す。

図は「普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査報告書(本編)」(2013(平成25)年3月 沖縄県 宜野湾市)より

2) 検討項目

(仮称)普天間公園の計画づくりにおける課題及び検討項目を以下に整理した。

1) 広域計画にもとづく(仮称)普天間公園の整備

跡地を活用した緑地の拡大、沖縄振興の拠点づくり、広域防災機能の導入等を目標とし、中南部都市圏のセントラルパークとなる(仮称)普天間公園を整備

①跡地を活用した緑地の拡大

大山湿地の保全やキャンプ瑞慶覧(返還予定地区)の斜面緑地との連携の重要性を踏まえ、緑地の計画フレームに関する検討を行い、(仮称)普天間公園の規模や施設内容等に関する計画に反映

図 2-45 「全体計画の中間取りまとめ」における検討項目

(3) 拠点施設の事例

①自然系

※都市公園法における公園内に整備可能な**自然・教養施設等**の例

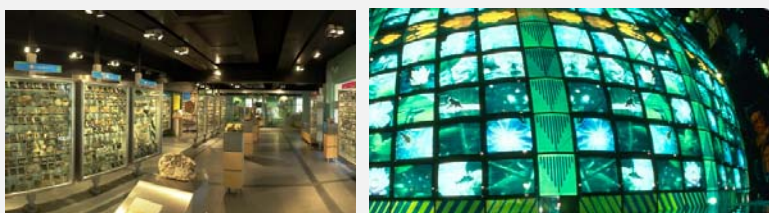
- ・植物園、温室、分区園、動物園、動物舎、水族館、自然生態園、野鳥観察所、動植物の保護繁殖施設、野外劇場、野外音楽堂、図書館、陳列館、天体又は気象観測施設、体験学習施設、記念碑 等

参考事例

■自然史博物館 <事例：ロンドン自然史博物館>

狙い ロンドンのいにしえからの自然の姿を示す 自然史そのものを身体で体験・学習できる博物館

- 特長**
- ・展示物は動物学・昆虫学・古生物学・植物学・鉱物学の5分野を網羅
 - ・子供や一般向けに自ら考え答えを出す仕掛け
 - ・イギリス原産の動植物を生きのまま展示



(仮称) 普天間公園において参考となる観点
身近な自然の歴史に触れる場の提供／自然史の教育

■実験農場<事例：ポリドーム（オランダ・Except社）>

狙い 循環型でサステイナブルな食料生産システムの構築 自然に近い生態系を再現・維持

- 特長**
- ・高い生産性と同時に、完全循環型・自然サイクルをドーム状で再現
 - ・廃棄物は全て堆肥化され、廃棄物はゼロ
 - ・最新技術と画期的なデザイン・設計の融合



■研究、バイオ <事例：日本コスメティックバレー（佐賀県唐津市）>

狙い コスメビジネスのワンストップサービス拠点化

- 特長**
- ・革新的なコスメ研究開発の拠点化
 - ・6次産業への展開やオープンラボ・インキュベートを支援



(仮称) 普天間公園において参考となる観点
水と緑を活かした熱帯・亜熱帯地域ならではの先端産業と連携した研究施設

図 2-46 自然系拠点施設の参考事例

②歴史系

※都市公園法における公園内に整備可能な**歴史・教養施設等**の例

- ・古墳、城跡、旧宅その他の遺跡及びこれらを復原したもので、歴史上又は学術上価値の高いもの

参考事例

■復元街区 <事例：ワルシャワ歴史地区>

狙い 近代的首都建設と、文化的アイデンティティの奪還

- 特長**
- ・戦後の都市改造の動きとは逆行する歴史地区の建造物の復原
 - ・戦前の姿をそのまま復原したのではなく、近代的居住環境に合わせた復原
 - ・行政による歴史的資源の活用とその文脈をくみ取った民間によるデザイン



凡例	
	世界文化遺産に登録された地区
	monument to historyとして認定された地区
	歴史的モニュメントに認定された地区を含め歴史的価値のある地区
	歴史的モニュメントに認定された空間軸
	歴史的モニュメントに認定された通りと広場
	歴史的な通りと広場
	台地上の歴史的シルエットを形成する歴史的建造物
	歴史的モニュメントに認定された建造物
	歴史的モニュメントに認定された考古学的遺跡
	歴史的モニュメントに認定された考古学的地区
	台地
	大きなスケールで景観を構成する空間軸

ワルシャワ歴史地区の復元とその継承に関する研究
—文化財としての価値をめぐる戦後の議論に着目して—
(2012) 東京大学大学院工学系研究科 鈴木亮平 他

(仮称) 普天間公園において参考となる観点
近代的生活に合わせた歴史資源の再生／周辺のまちづくりへの波及

■遺跡活用事例 <事例：石見銀山>

狙い 産業・生活に根差した文化的景観の継承

- 特長**
- ・石見銀山の閉山後、住民がその歴史と文化に価値を見だし、遺産の保全を開始
 - ・官民が協働して世界遺産登録に関わる課題を検討し、行動へつなげることを目的として「石見銀山協働会議」が設立（保全、活用、受入、発信の4分科会）



(仮称) 普天間公園において参考となる観点
地区全体を活用したフィールドミュージアムの活用
／従来の生活・文化に対する価値付けと継承

図 2-47 歴史系拠点施設の参考事例

③交流・平和希求・防災系

※都市公園法における公園内に整備可能な**防災施設等の例**

- ・展望台及び集会所並びに食糧、医薬品等災害応急対策に必要な物資の備蓄倉庫その他災害応急対策に必要な施設 等

参考事例

■平和 <事例：朝霞市基地跡地（埼玉県）>

狙い 基地跡地としての歴史・記憶の継承

- 特長**
- ・国に接收されて以後の軍用地と基地の歴史に関わる資源を保存
 - 街区割りとそれに合わせてデザイン・配置されたプラタナスの並木や竹林など
 - 米軍建物跡など、当時の記憶を伝える建物や構造物の位置とデザイン



（仮称）普天間公園において参考となる観点
基地の跡地としての歴史・記憶を継承する空間づくり

■交流 <事例：山下公園・貧困撲滅キャンペーンイベント「ONE FOR ALL」>

狙い 世界へ向けた貧困問題と撲滅キャンペーンの発信

- 特長**
- ・チャリティー組織「コミックリリーフ」が発起したプロジェクト
 - ・先進国に対して貧困問題の解決を呼びかけ、参加者へ貧困撲滅への役割を提起



（仮称）普天間公園において参考となる観点
戦争に対するものに限らず、広い意味での平和・交流／世界へ向けた情報発信

◆防災<広域防災拠点の定義>

①都市公園法における広域災害救援活動の拠点として国が設置する都市公園の基準

配置	・大規模な災害により重大な損害を生ずるおそれがある都道府県の区域ごとに一箇所
規模	・災害時において物資の調達、配分及び輸送その他の広域的な災害救援活動を行うのに必要な規模以上
位置・区域の選定	・災害時における物資の調達及び輸送の利便性を勘案して、広域的な災害救援活動の拠点としての機能を効率的に発揮する上で適切な区域
公園施設の整備	・広域的な災害救援活動の拠点としての機能を適切に発揮するため、広場、備蓄倉庫その他必要な公園施設を、大規模な地震に対する耐震性を有するものとして整備

②その他

（都市公園法施行令第3条）







防災公園計画・設計ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・主として広域的な復旧・復興活動の拠点となる都市公園 ・面積おおむね 50ha 以上 ・都市の規模、または交通・物流の観点から妥当と考えられる対象圏域あたり 1カ所 <p>（平成 11 年 8 月／建設省都市局公園緑地課・建設省土木研究所環境部監修）</p>
広域防災拠点が果たすべき消防防災機能のあり方に関する調査検討会報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・広域防災拠点は、災害時に広域応援のベースキャンプや物資の流通配給基地等に活用されるもので、概ね都道府県により、その管轄区域内に 1 箇所ないし数カ所設置されるものである <p>（平成 15 年 3 月／総務省消防庁）</p>

図 2-48 交流・平和希求・防災系拠点施設の参考事例

(4) 各公園・開発地域との同スケール比較

① 県内





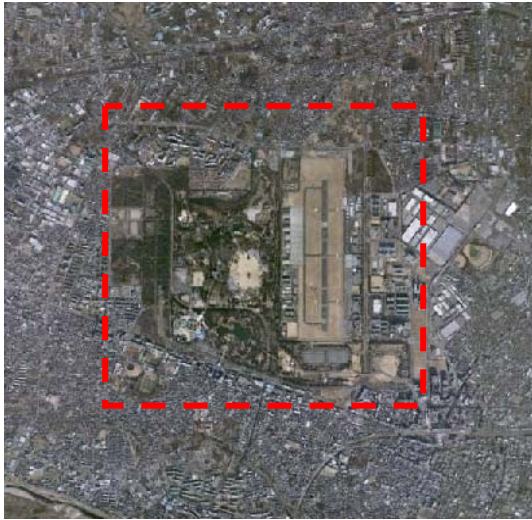

表 2-22 各公園・開発地域との同スケール比較 (県内)

<p>普天間飛行場 (約 480ha)</p> 	<p>那覇新都心 (約 214ha)</p> 
<p>平和記念公園 (沖縄) (約 47ha)</p> 	<p>沖縄運動総合公園 (約 70.4ha)</p> 
<p>海洋博公園地区 (約 77.2ha)</p> 	<p>首里城公園地区 (約 17.8ha)</p> 

県内ではかつてない規模の基地跡地





②国内

表 2-23 各公園・開発地域との同スケール比較（県外）

<p>普天間飛行場（約 480ha）</p> 	<p>筑波学園研究都市（研究学園地区）（約 2,700ha）</p> 
<p>みなとみらい 21（約 186ha）</p> 	<p>幕張再開発（ - ）</p> 
<p>昭和記念公園（約 180ha）</p> 	<p>平和記念公園（広島）（約 12.21ha）</p> 

③海外

表 2-24 各公園・開発地域との同スケール比較（海外）

<p>普天間飛行場（約 480ha）</p> 	<p>セントラルパーク（約 341ha）</p> 
<p>セントサ島（約 500ha）</p> 	<p>シュヴァルツヴァット（約 528,000ha）</p> 

全国的・世界的にも大規模（セントラルパークと同程度）

(5) 沖縄県内における大規模公園（広域公園以上）

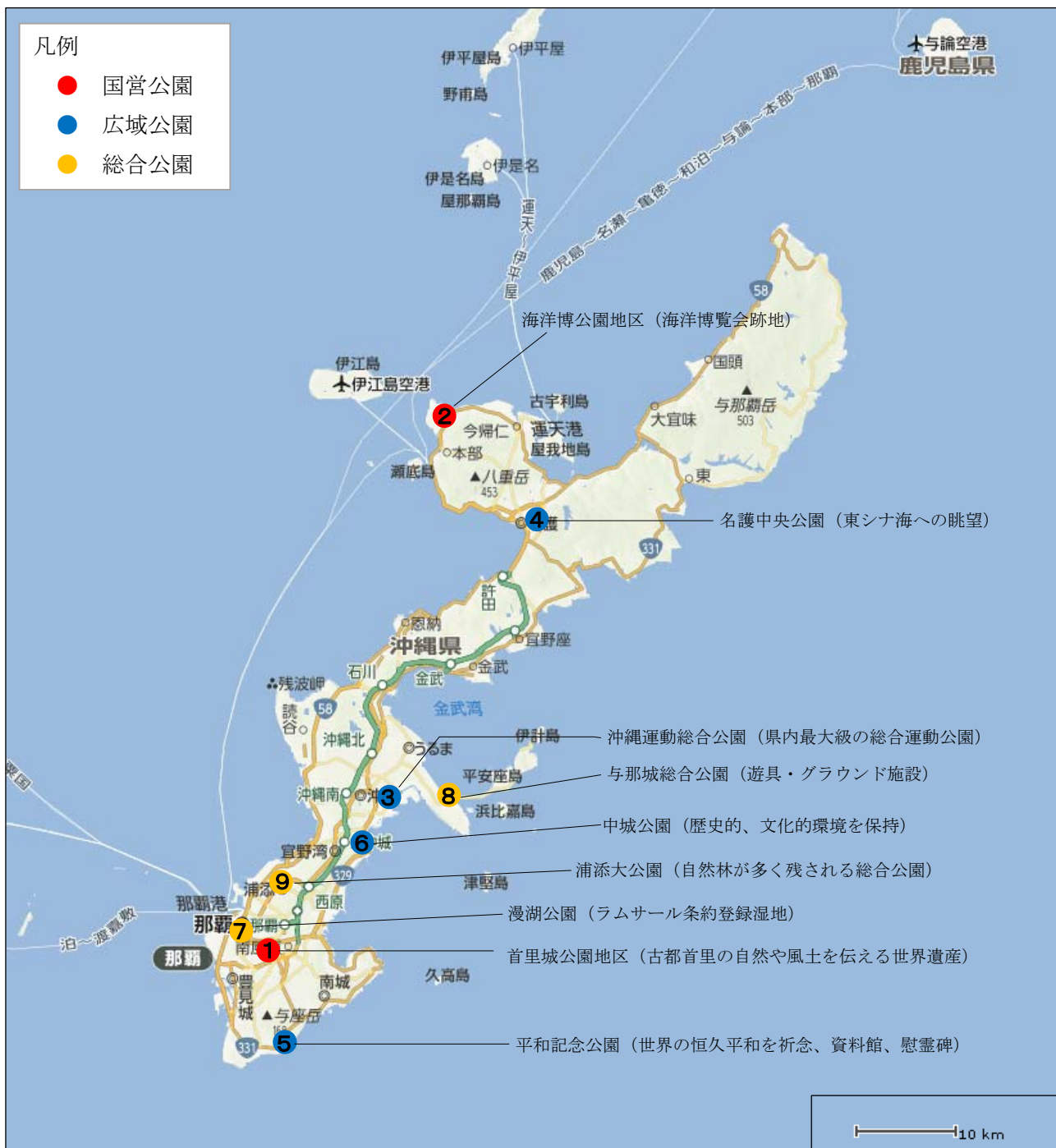


図 2-49 沖縄県内における大規模公園の配置図

表 2-25 沖縄県内における大規模公園の一覧

公園名	所在	種別	特徴	面積
①国営沖縄記念公園 (首里城公園地区)	沖縄県那覇市首里金城町1丁目2	国営	大きく沖縄県本部町にある海洋博覧会地区と那覇市にある首里城地区の二つの地区に分けられる。日本の都市公園100選に選ばれている。	2.7ha
②国営沖縄記念公園 (海洋博公園地区)	沖縄県国頭郡本部町字石川424番地	国営	沖縄県の日本復帰を祈念して開催された沖縄国際海洋博覧会を記念した博覧会跡地にできた公園。	71.8ha
③沖縄県総合運動公園	沖縄県沖縄市比屋根5丁目3-1	広域	スポーツのみならず、レジャーや文化交流等を含めた複合的機能を有する沖縄県内最大級の総合運動公園。	70.4ha
④名護中央公園	沖縄県名護市字名護5511	広域	頂上付近の展望台からは名護の市街地やエメラルドグリーンの美しい東シナ海など素晴らしい景色を眺めることができる。	59.1ha
⑤平和記念公園	沖縄県糸満市字摩文仁444番地	広域	平和祈念資料館、平和の礎、平和祈念像、慰霊塔が50基建立されています。国内外の観光客が多く訪れ、観光の要所である。	43.0ha
⑥中城公園	中城村、北中城村	広域	歴史的、文化的環境を保持しているとともに、東に中城湾、太平洋を望む景勝の地。	11.9ha
⑦漫湖公園	沖縄県那覇市古波蔵3丁目23-1	総合	スポーツ施設としてだけでなく、家族の憩いの場としてベーシックな公園の機能も備えている。近くには干潟がある。	
⑧与那城総合公園	うるま市 与那城 中央	総合	子供が楽しめる遊具からグラウンド、スケートボードのリンクまで様々な施設が揃う。	12.4ha
⑨浦添大公園	沖縄県浦添市伊祖5丁目	総合	子供が楽しめる遊具からグラウンド、スケートボードのリンクまで様々な施設が揃う。	10.52ha

(2) 道路

道路に関する検討(「駅とフィーダー交通の検討」を除く)は、「中南部都市圏駐留軍用地跡地周辺整備検討調査(キャンプ瑞慶覧)報告書 2014(平成26)年3月」の該当箇所を引用した。

上位計画及びこれまでの調査の状況を踏まえ、中部縦貫道路のルートについて検討を行った。なお、詳細ルートは沖縄県道路街路課にて検討中である。

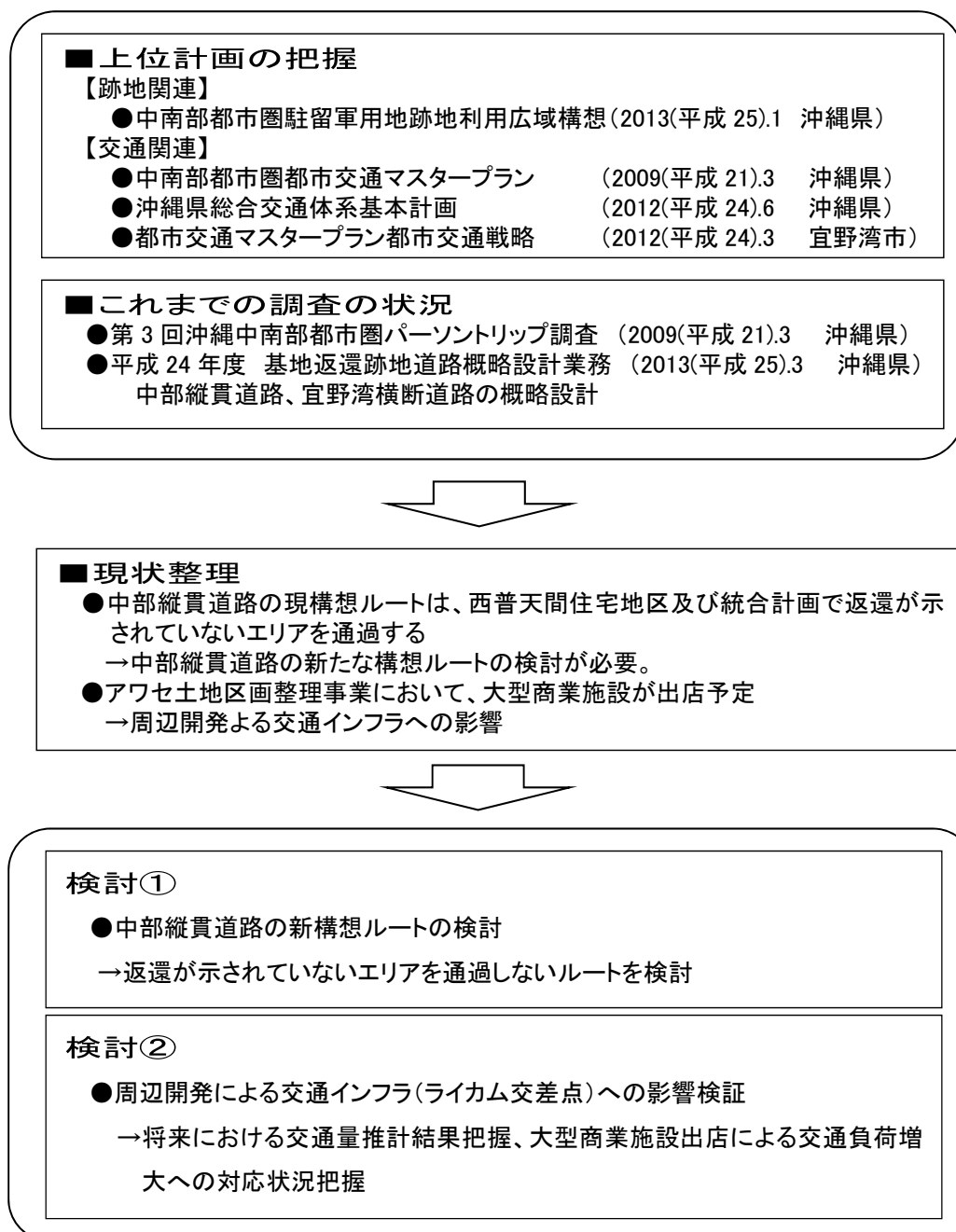


図 2-50 検討フロー

1) 上位計画

交通に関する上位計画は、以下のとおりである。

- ・「中南部都市圏都市交通マスタープラン」 (2009(平成 21)年 3 月 沖縄県)
- ・「沖縄県総合交通体系基本計画」 (2012(平成 24)年 6 月 沖縄県)
- ・「都市交通マスタープラン都市交通戦略」 (2012(平成 24)年 3 月 宜野湾市)

これらを踏まえ、「広域構想の全体イメージ図」の中に中部縦貫道路、宜野湾横断道路、新たな公共交通システム等が位置づけられており、それを整理したのが下図である。

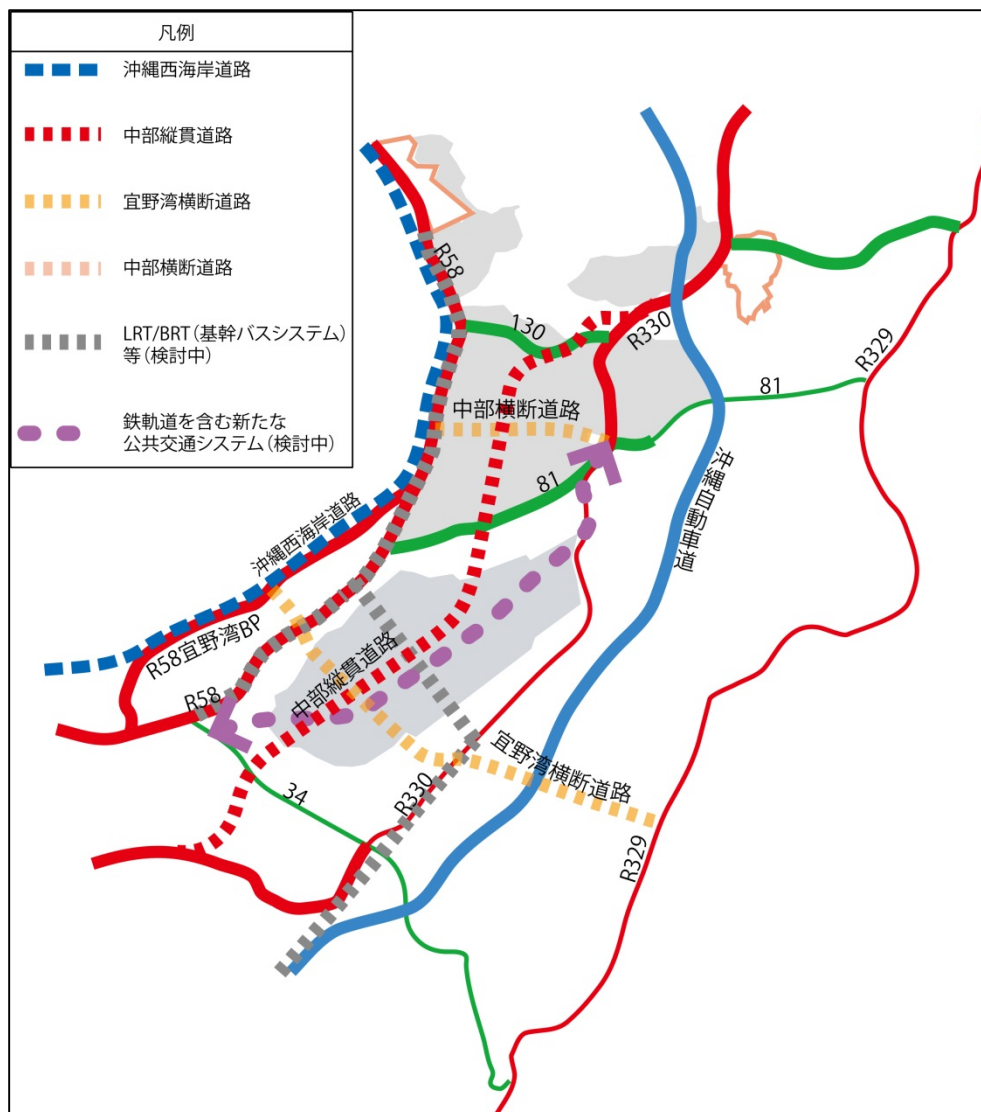
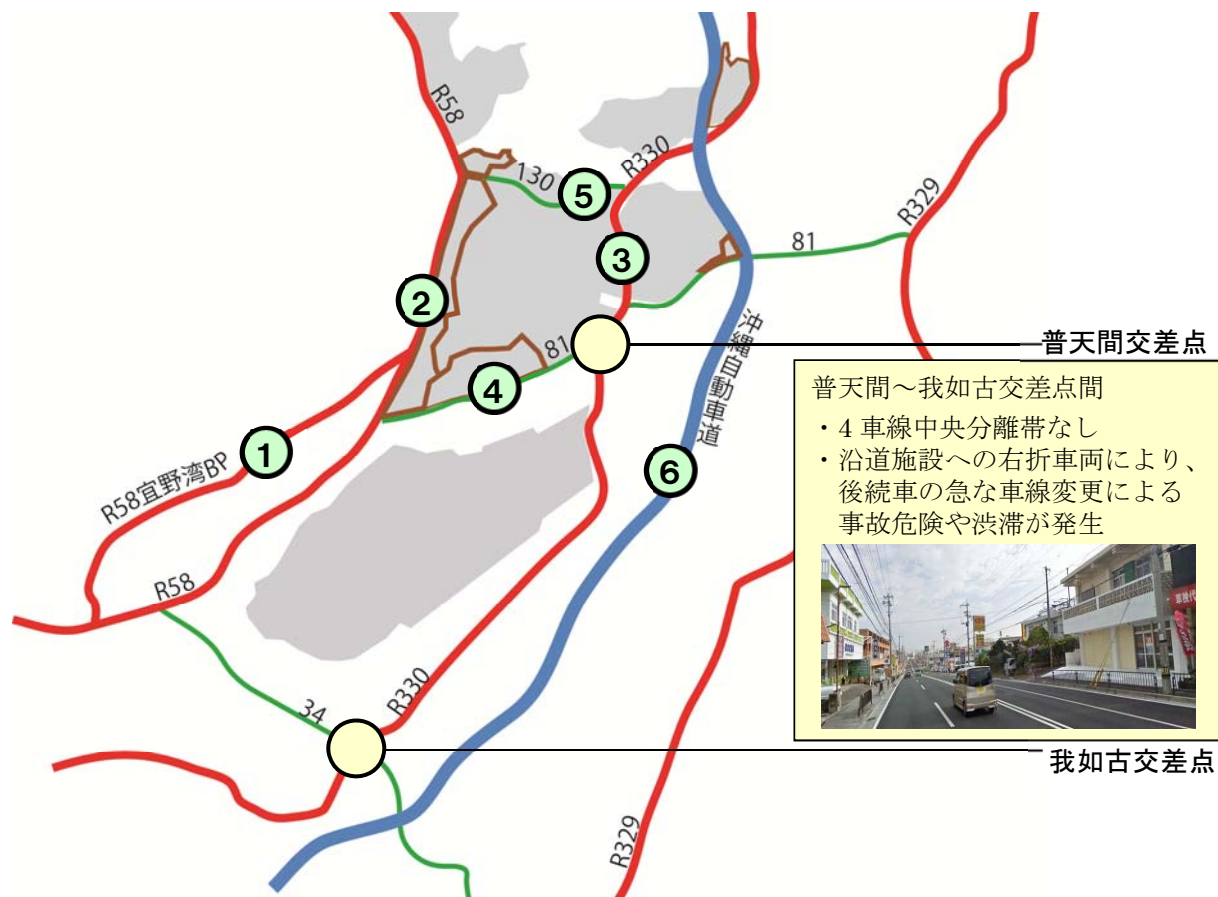


図 2-51 キャンプ瑞慶覧周辺の道路計画等

2) 周辺道路の現状

キャンプ瑞慶覧周辺の道路の現状は、南北動線として国道 58 号（国道 58 号宜野湾 BP）、国道 330 号、沖縄自動車道、国道 329 号、東西動線として、県道 81 号線、県道 130 号線がある。

また、国道 330 号普天間・我如古交差点間では、中央分離帯が無いいため沿道施設への右折車両により後続車の急な車線変更による事故危険や渋滞が発生している。



		
①国道 58 号宜野湾バイパス (4 車線中央分離帯側道あり)	②国道 58 号 (6 車線 中央分離帯あり)	③国道 330 号 (4 車線 中央分離帯あり)
		
④県道 81 号線 (4 車線 中央分離帯あり)	⑤県道 130 号線 (4 車線 中央分離帯あり)	⑥沖縄自動車道 (自動車専用道路 4 車線)

写真：google

図 2-52 周辺道路の現状

3) 現状交通量・混雑度

現状交通量・混雑度は、平成 22 年度道路交通センサスの結果より把握した。結果は、以下のとおりである。

●混雑度 1.75 以上（慢性的混雑状態を示す）

- a. 宜野湾市宇地泊 2.21
- b. 中頭郡中城村久場 1.80

○混雑度 1.25～1.75

（ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態）

- c. 宜野湾市大謝名 1.64
- d. 宜野湾市字愛知 1.43
- e. 浦添市西原 1.39
- f. 西原町字上原 1.31

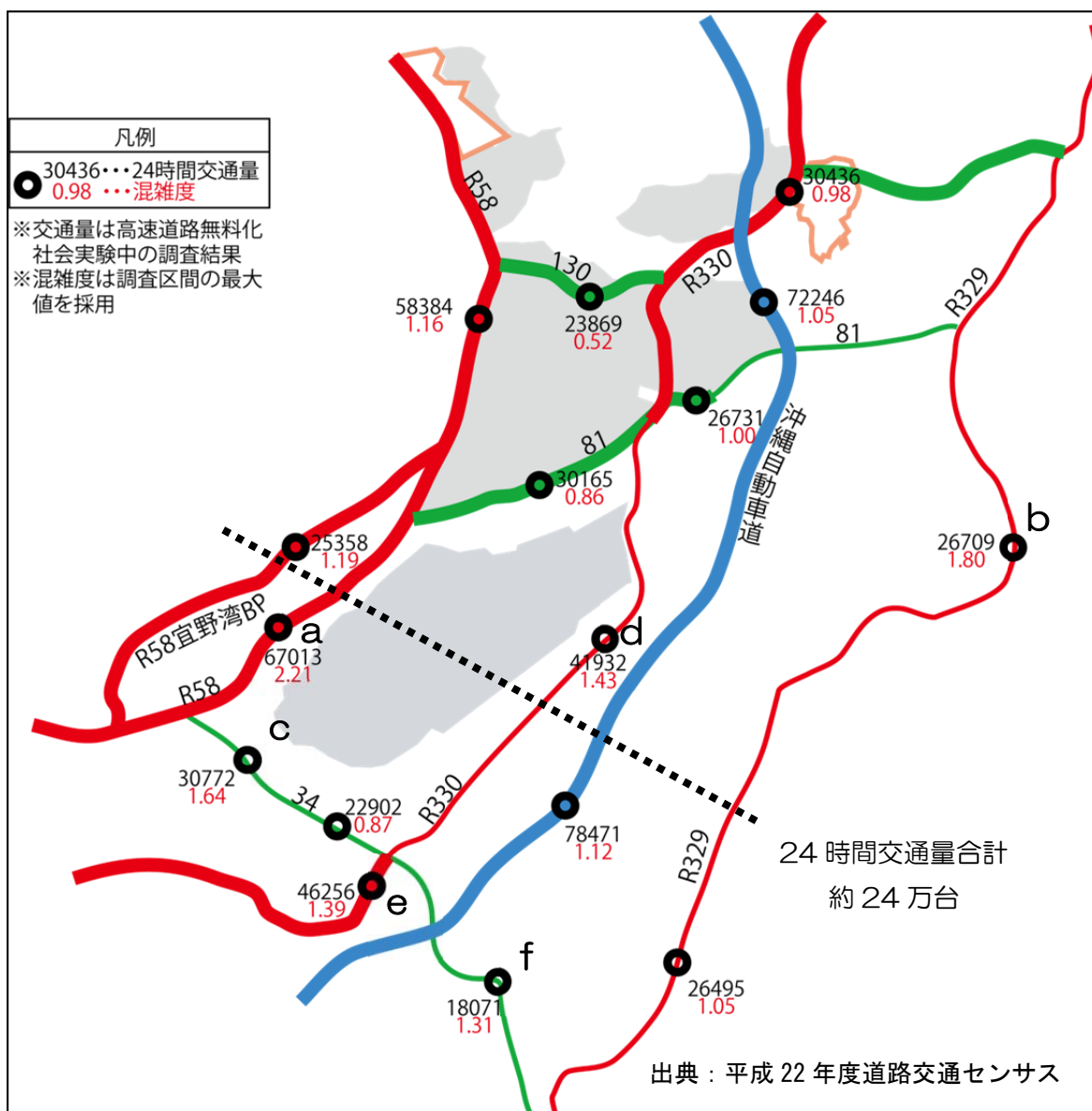
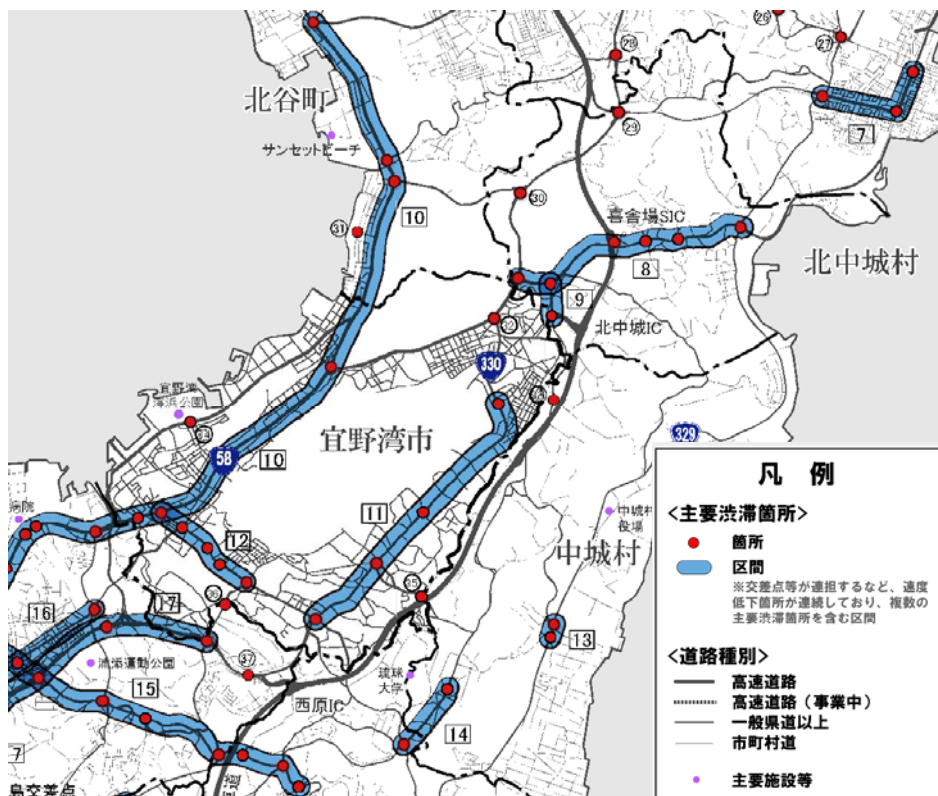


図 2-53 交通量・混雑度

宜野湾市域の主要渋滞箇所は、国道 330 号、国道 58 号、県道 34 号線である。また、宜野湾市域の混雑時旅行速度は、三大都市圏とほぼ同等の水準である。



出典：「続!! わった一島の渋滞改善さびら 2013(平成 25)年 3 月 沖縄総合事務局」の一部抜粋

図 2-54 主要渋滞箇所図

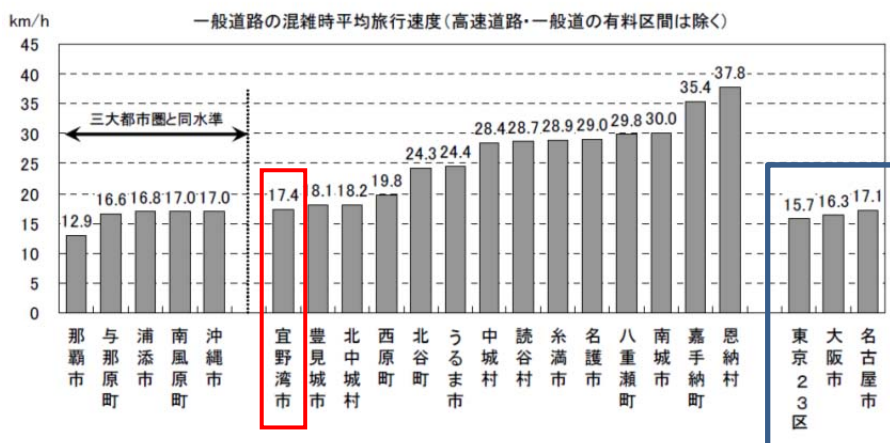


図 2-3 市町村別の混雑時旅行速度

※一般道路の平均旅行速度(高速道路、一般道の有料区間は除く)
 ※混雑時とは、各道路区間における最も交通量が多い時間帯のことであり、道路区間により異なる

出典：道路交通センサス一般交通量調査(国土交通省道路局、H22)

出典：「沖縄県総合交通体系基本計画」2012(平成 24)年 6 月 沖縄県

図 2-55 市町村別混雑時平均旅行速度

4) 将来交通量・混雑度

将来交通量・混雑度は、アワセゴルフ場地区等を含む周辺開発及び中南部都市圏駐留軍用地からの発生集中交通量も考慮された「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査」より把握した。

将来混雑度の結果をみると、ライカム交差点付近（次ページ図赤丸印）において、「ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態」である混雑度1.25以上となっている。

■2030(平成42)年交通量（第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査）

- ・ライカム交差点（赤丸印）
- ・国道330号交差点南側 51000台/日
- ・国道330号交差点北側 12900台/日
- ・県道85号線（交差点東側） 41900台/日
- ・中部縦貫道路 36600～43100台/日（図中数値の読み取れる範囲）



出典：「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

（沖縄本島中南部都市圏総合都市交通協議会 2009(平成21)年3月）」

図2-56 将来交通量

■2030(平成42)年混雑度 (第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査)

- ライカム交差点 (赤丸印)
 - ・ 国道330号交差点南側 1.77
 - ・ 国道330号交差点北側 1.34
 - ・ 県道85号線 (交差点東側) 1.45
- 中部縦貫道路 1.0未満



出典：「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

(沖縄本島中南部都市圏総合都市交通協議会 2009(平成21)年3月)」

図2-57 将来混雑度

5) アワセ土地区画整理事業による周辺道路の交通負荷増大への対応について

「アワセ土地区画整理事業（大規模商業施設）による周辺道路（ライカム交差点等）への交通負荷増大への対応策について北中城村にヒアリングを行った。

その結果、周辺道路への影響回避のための効果的な対応策について、北中城村が関係機関と協議中であることが把握された。

北中城村が検討している対応策は、以下のとおりである。

- 地区の四方合計で6箇所の出入口を配置するとともに、駐車場へ入る車両が周辺の一般道路で待ち車列をつくらないために、敷地内にループ道路を計画している。
- 交差点部においては、交差点流入枝を増やすなどして（例えば、ライカム交差点の流入枝は6車線）、交差点需要率を0.9以下に抑えている。
- 道路ネットワーク整備での対応として、地区南方面からのアクセスを可能にする道路（村道南部延伸線及び村道東西線）の整備を図っており、経路の選択肢が増やされている。これにより、パーソントリップ調査では国道330号と主要地方道沖縄環状線のみを負荷されている交通を分散させている。



図 2-58 交通負荷増大への対応（駐車場出入口の分散・公道への待ち車列防止）

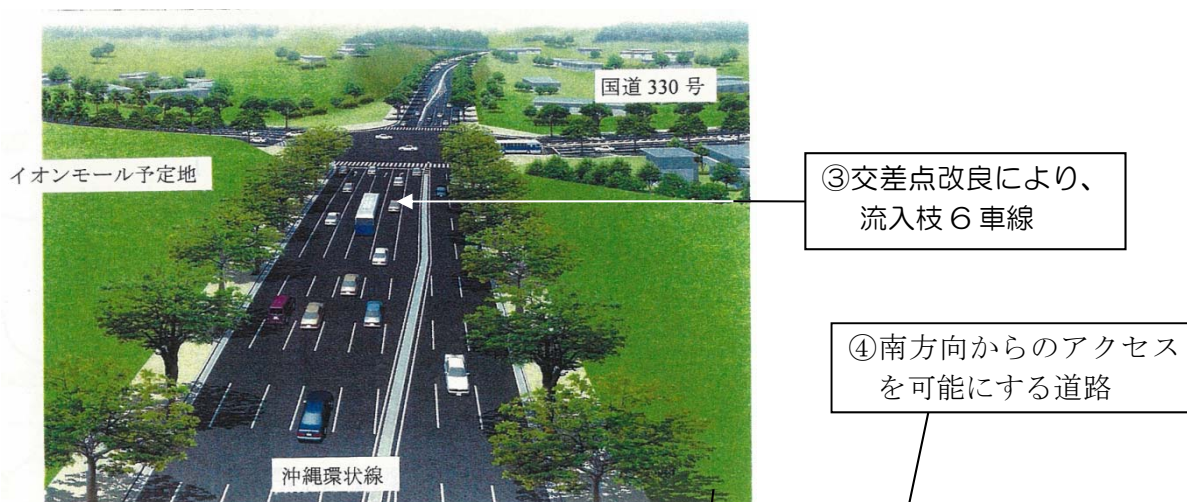


図 2-59 交通負荷増大への対応（交差点改良）

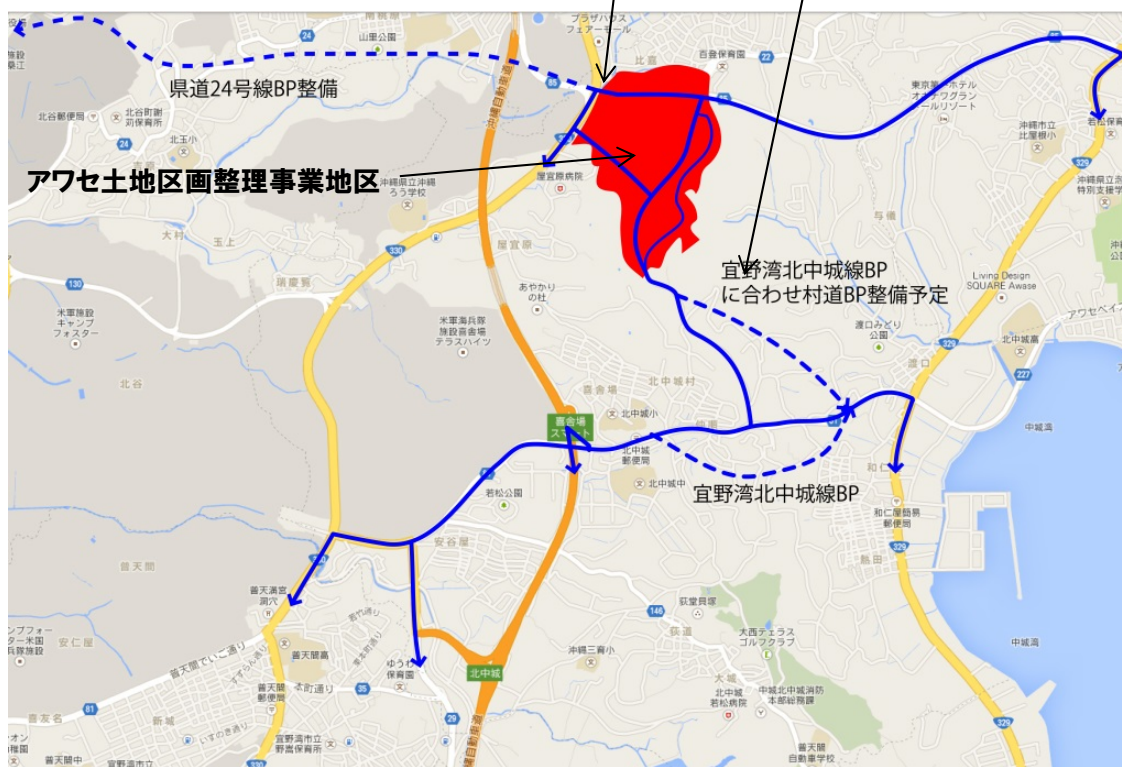


図 2-60 交通負荷増大への対応（アクセス経路の選択肢の増加）

6) 中部縦貫道路の新構想ルートへの検討

中部縦貫道路は、統合計画で返還が示されていないエリア、早期に返還される西普天間住宅地区を通過することから、開発と計画の時間軸の整合が必要である。

一方、国道 330 号は慢性的な交通渋滞が発生しており、早期解消が必要である。また、普天満宮周辺では「いつ来てもなにかがある、いつも来なくなるまち 普天間門前“交流”舞台 ～世界中で普天間だけの舞台づくり～」をまちづくりのコンセプトとして「普天間交差点の改良と門前広場等の整備及び松並木の再生」「交流拠点施設の整備」等の検討が進められている。

このようなことから、予定される普天間飛行場の返還前に周辺のまちづくり動向を踏まえつつ普天間飛行場以外の道路整備を進め、返還後のスムーズな跡地利用を図る必要がある。

以上のことから、中部縦貫道路の新構想ルートは、次ページ図に示すルートを想定した。なお、詳細ルートは沖縄県道路街路課にて検討中である。

■沖縄県が実施している調査の概要

平成 25 年度沖縄県広域道路整備基本計画調査

1. 目的

- 沖縄 21 世紀ビジョン基本計画・基地返還関係を含めた社会経済情勢の変化を踏まえ、主要個別路線の道路機能等の検討や基地返還予定時期等を踏まえた超長期（H42 年度以降）の道路ネットワークの検討を行い、沖縄県広域道路整備基本計画（素案）を取りまとめる。

2. 業務内容

①道路機能等の検討

- ・対象路線：中部縦貫道路、宜野湾横断道路 他

②計画目標年次の設定と道路ネットワーク検討

- ・基地返還予定時期等を考慮した上で、平成 42 年度以降の目標年次を設定し、道路ネットワークの検討。

③沖縄県広域道路整備基本計画（素案）とりまとめ

- ・道路ネットワークに係る評価指標の設定、効果検証等を行った上で素案を取りまとめる。

※公募資料より作成

■ 中部縦貫道路の新構想ルート

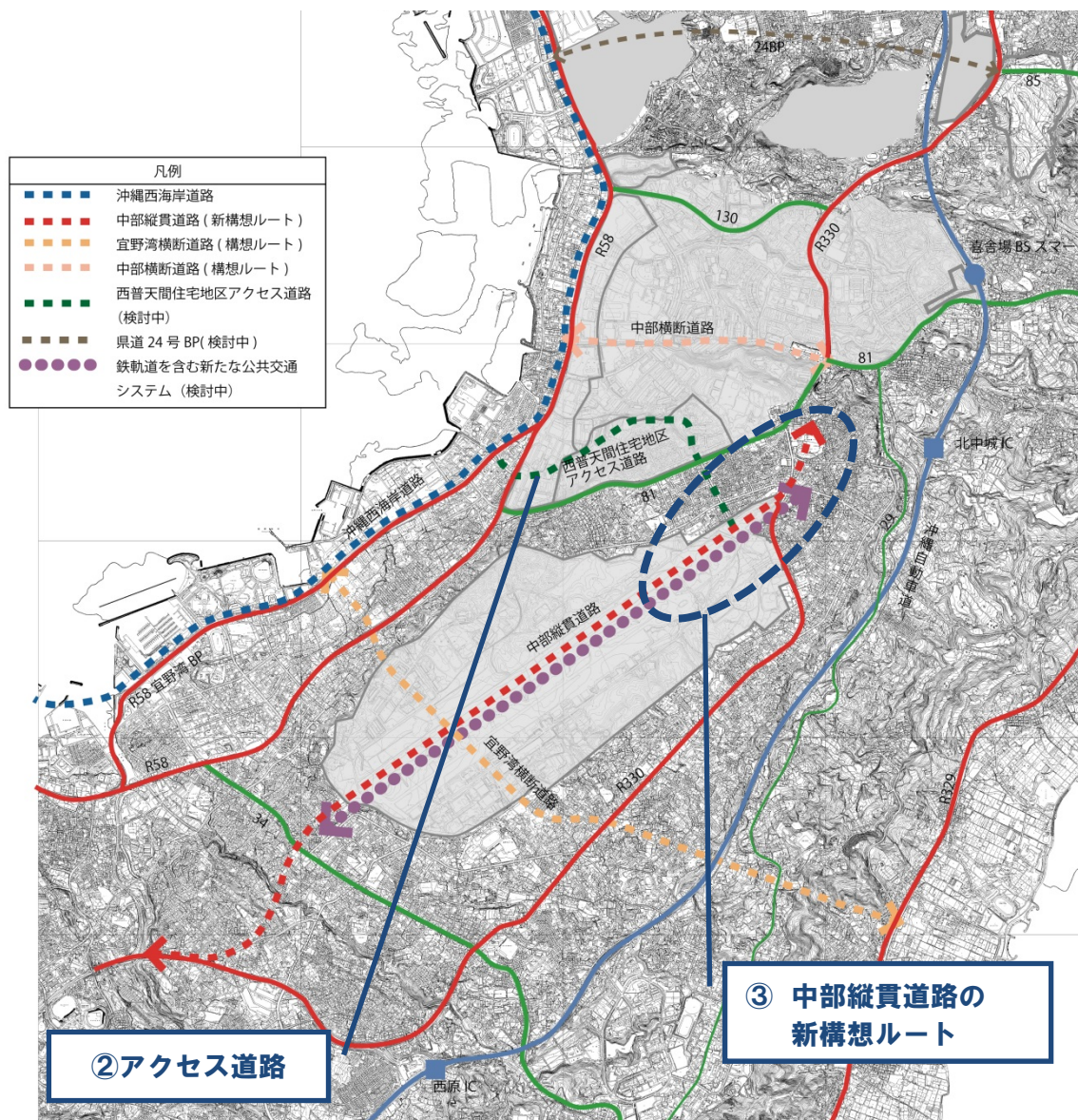


図 2-61 中部縦貫道路の新構想ルート

7) 周辺市街地における道路体系の整理

中部縦貫道路の新構想ルート及び周辺都市計画道路を踏まえ、普天間既成市街地及び普天間飛行場、西普天間住宅地区等の周辺市街地をつなぐ道路網イメージを作成した。

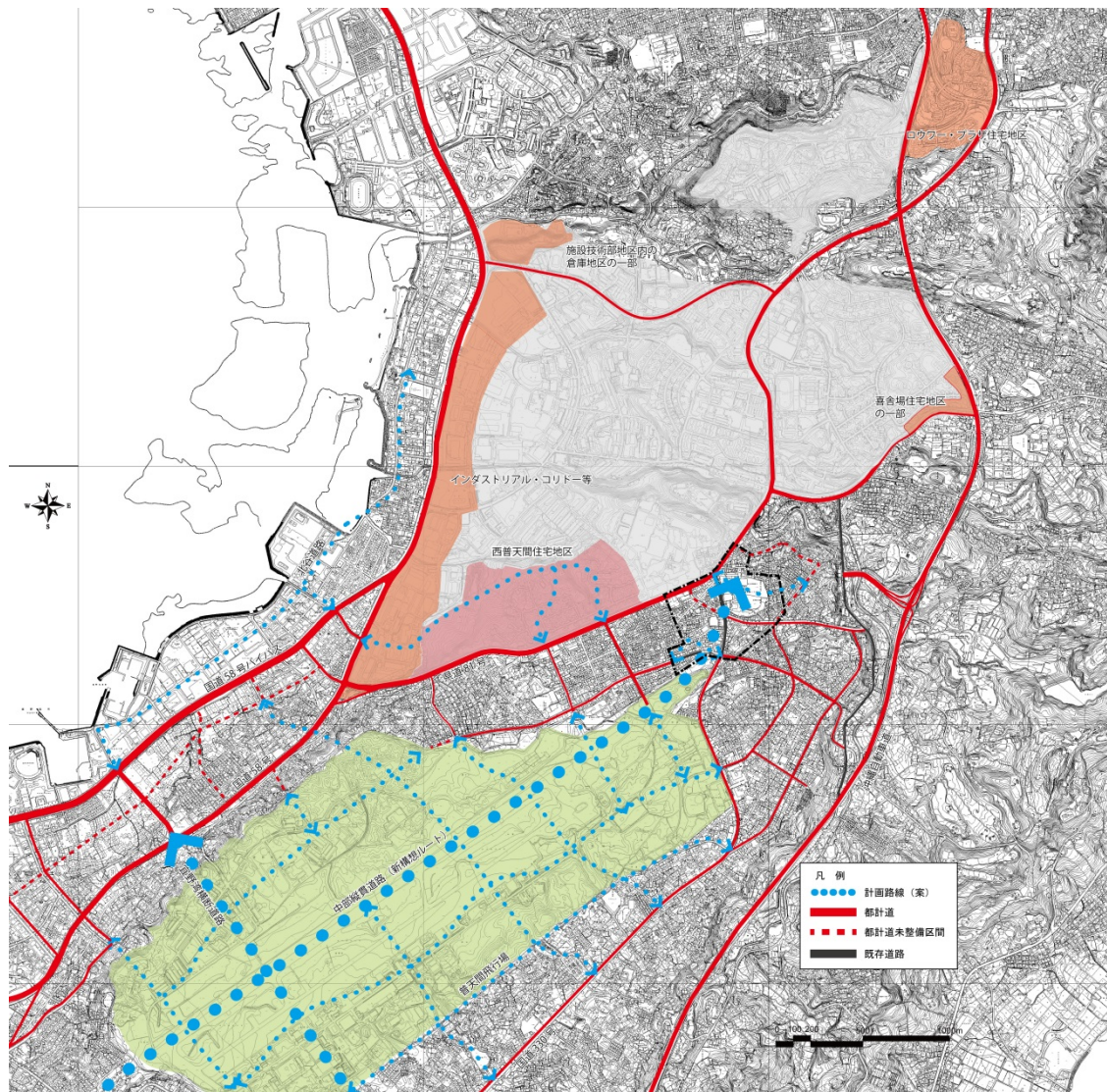


図 2-62 周辺市街地の道路網イメージ

8) 駅とフィーダー交通の検討

駅の配置やフィーダー交通の検討にあたっては、担当部局が計画している鉄軌道計画をベースにして、当地区と西海岸地域、西普天間住宅地区等、跡地周辺既成市街地等の連携を支えるために、鉄軌道とフィーダー交通システムが一体となった公共交通ネットワークを形成することを基本とした。

鉄軌道やフィーダー交通の機能及び施設配置方針は、以下のとおりである。

なお、今後駅周辺部の整備のあり方について検討を行う。

鉄軌道駅	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄軌道は那覇～名護を1時間で結ぶ幹線鉄道の役割が求められていることに鑑み、その駅勢圏を1kmとし、駅勢圏が重ならない駅間隔(2km)を標準とする。
拠点駅(鉄軌道駅①)	当地区中央に拠点駅を配置、フィーダー交通との利便性の高い結節機能を付与する。
提案駅(提案鉄軌道駅②)	駅間距離、県道34号線を通るバス路線との連携、周辺に形成された市街地状況を勘案し配置する。
提案駅(提案鉄軌道駅③)	駅間距離、周辺に形成された市街地状況、生活・文化の拠点である市役所・普天満宮等の立地を勘案し配置する。

フィーダー交通 (LRT 等)	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点駅(鉄軌道駅①)から周辺市街地を周回するルートを設定する。 ● 駅(停留所)は、沖縄都市モノレールの駅勢圏を参考に、500m程度の間隔で配置する。

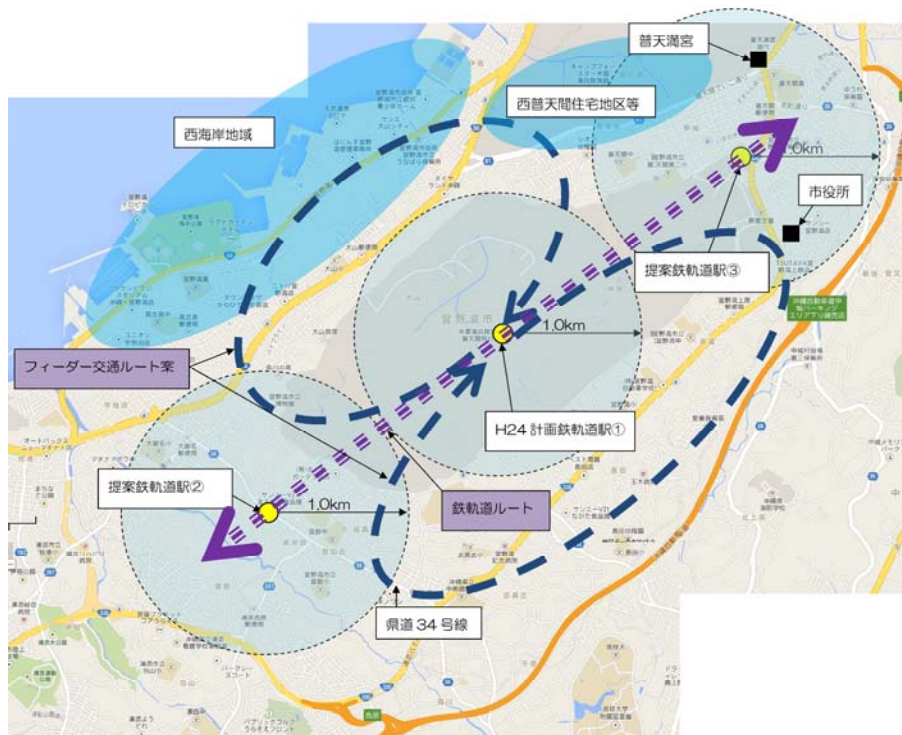


図 2-63 駅位置とフィーダー交通ルートのイメージ

(3) 供給処理・情報通信基盤の整備

当地区における供給処理・情報通信基盤の整備に関しては「全体計画の中間取りまとめ」において以下のとおり整理されている。

1) 供給処理・情報通信基盤の考え方

普天間飛行場跡地においては、環境づくりと連携した供給処理基盤と産業立地や先進的な都市サービス導入のインフラとなる情報通信基盤を整備することが必要である。

供給処理基盤に関しては、広域的な既定計画による施設整備に加えて、低炭素化、資源循環、水循環の保全等に向けた先進的な取り組みの導入が想定される。

具体的なメニューとしては、上下水道、電力、ガスといった広域における既定計画に基づく施設整備に加え、雨水地下浸透の促進や地区外への雨水流出抑制に向けた雨水排水施設の整備、低炭素まちづくりの実現に向けた省エネルギー化や、再生可能エネルギーの活用が考えられている。

一方、情報通信基盤に関しては、情報通信関連産業の誘致や新しい都市サービスの導入等を目標として、ハード・ソフトに渡る先進的な取り組みを導入することを目的として、県内から国内外への通信コスト低減の取り組みに資する「戦略的通信コスト低減化支援事業」や「沖縄国際情報通信基盤整備事業」等の導入、生活スタイルの多様化を視野に入れたブロードバンドサービスの導入等が考えられている。

2) 供給処理・情報通信基盤に関して導入が想定される技術

前項の考え方を踏まえ、当地区への導入が想定される技術を以下に整理した。

① 供給処理関連技術

■ 導入が想定される技術

- ・ 太陽光発電、風力発電等の再生可能エネルギーの導入拡大とエネルギーの地産地消を図る。
- ・ 地域産業から排出される廃油・家畜のし尿等のエネルギー利用を推進する。
- ・ スマートグリッドの整備による電力の分散化を図る。
- ・ CEMS・BEMS・HEMSの導入による電力の省エネ化を図る。
- ・ コージェネレーションシステムの導入による省エネ化を図る。
- ・ 蒸暑地域に適した住宅を普及させる。
- ・ フレックスタイム制、ゼロエネルギーの推進などによる電力消費の平準化を図る。

■ 想定される取組み事業（例）：スマートコミュニティ

電気の有効利用に加え、熱や未利用エネルギーも含め、エネルギーの「面的利用」や、地域の交通システム、市民のライフスタイルの変革などを複合的に組み合わせたエリア単位での次世代のエネルギー・社会システムを構築する。



図 2-64 取組み事業（例）スマートコミュニティ

② 情報通信基盤関連技術

■ 導入が想定される技術

- ・ 新たなまちの象徴となる情報発信拠点の整備を想定する。
- ・ 情報インフラを整備し、IT 関連産業を創出する。また、コミュニティの衰退を防ぐため、若年層から高齢者までが集い交流する複合施設を設置する。
- ・ クラウドや CATV など、多様な情報技術を、コミュニティの活性化や文化の伝承などの手段として導入する。
- ・ 大学と地域が連携した取組みを通じ、学歴向上、人材育成やコミュニティの活性化を促す。

■ 想定される取組み事業（例）：沖縄国際情報通信基盤整備事業

沖縄から直接海外へ向けた通信が可能な環境を構築・運営することによって、インターネット接続業者をはじめ、海外向けのビジネスを行う情報通信関連企業に対し、沖縄・海外間の回線を含む沖縄国際情報通信基盤を活用する。

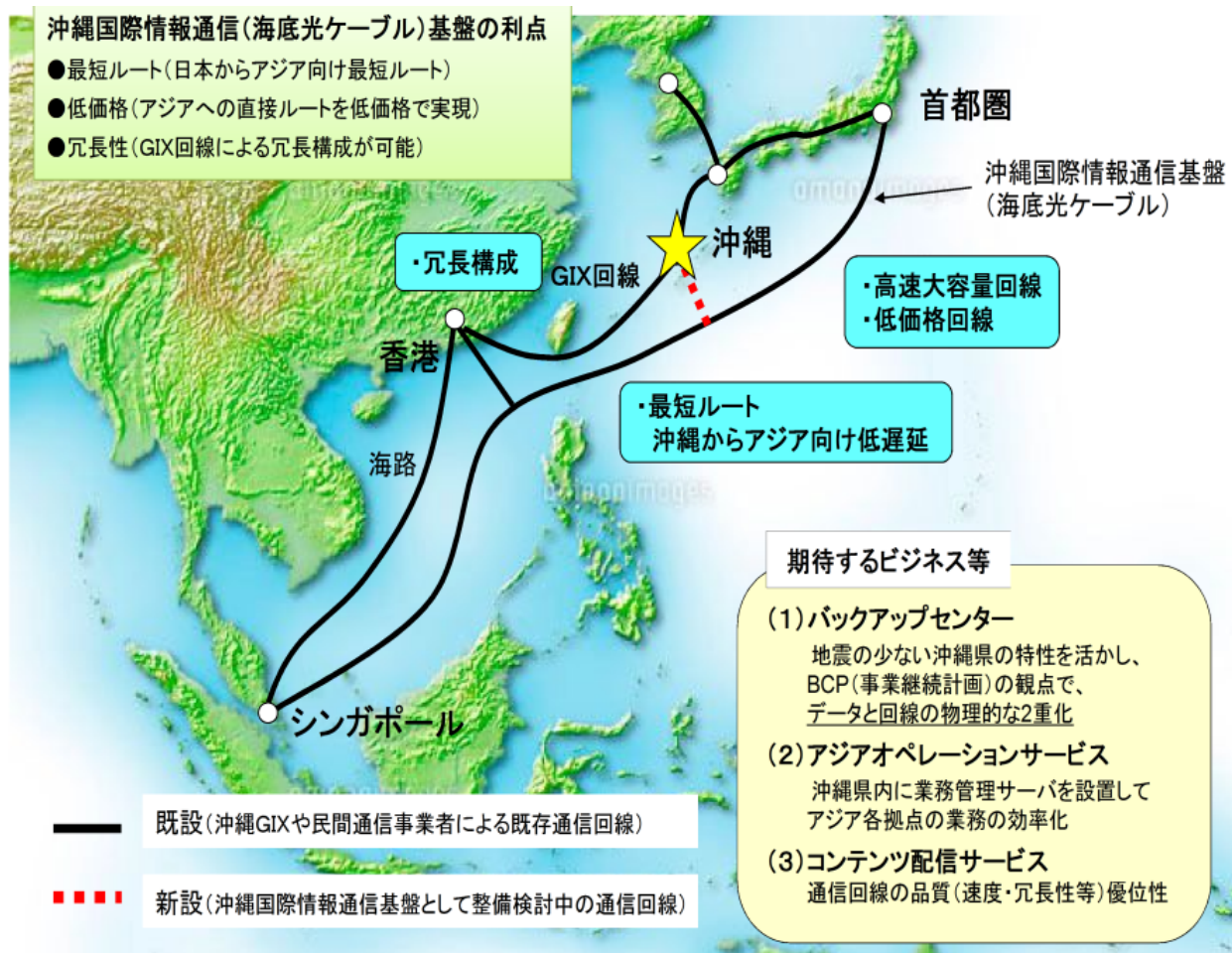


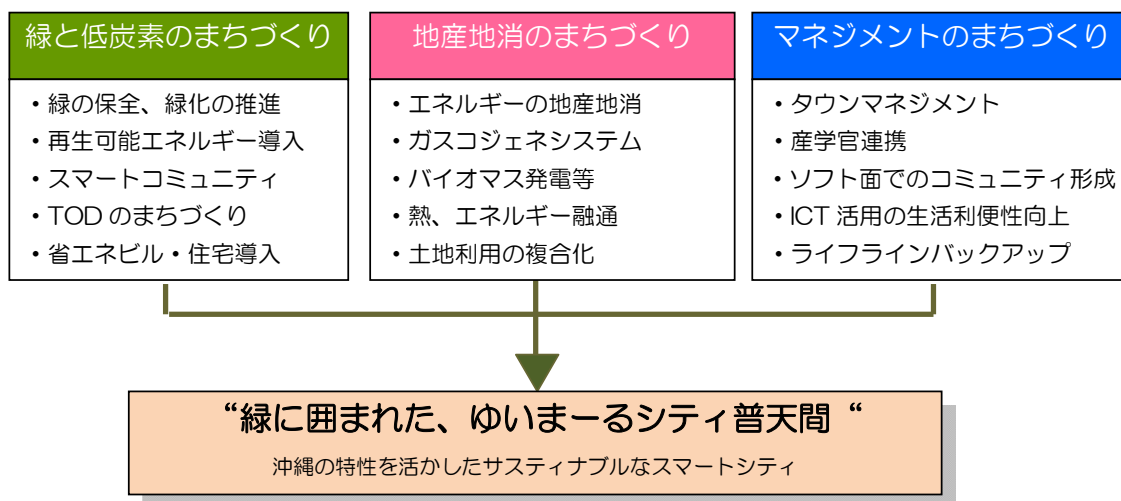
図 2-65 取組み事業（例）沖縄国際情報通信基盤整備事業

3) 供給処理・情報通信基盤を活用したまちづくりの方向性

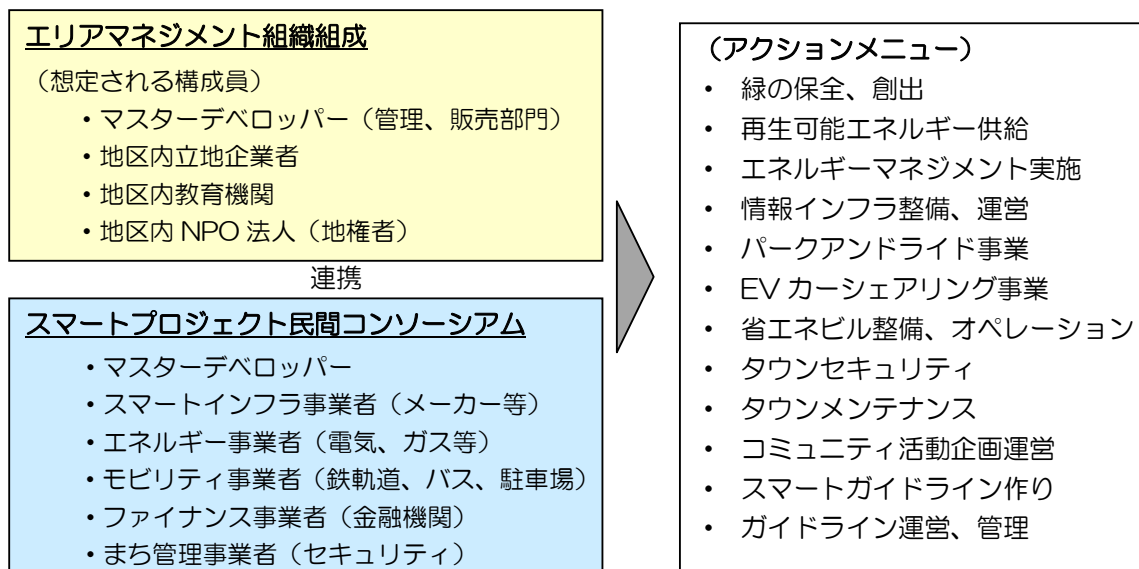
当地区においては、供給処理・情報通信基盤の整備により導入が想定されるスマートグリッドやエネルギー関連技術、またはこれを結ぶ IT 技術を活用し、沖縄ならではの地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入や特徴的な消費エネルギーの傾向に対応したローカーボン省エネ化の実現、地域特性を踏まえたグリーンビルディング、省エネ住宅整備などにより環境配慮型都市を目指すことが望ましいと考えられる。

これらの環境インフラを活用し、地区内に立地、進出する事業者や就業者等との連携の元、事業環境や生活環境に関する質の向上を実現していくため、目指すべき将来像と実現に向けたアクションについて以下に整理した。

目指すべき将来像



実現化に向けたアクション



(参考) 導入が想定されるアクションメニュー

●緑関係の取組み

緑の保全、創出の技術例：屋上緑化・壁面緑化

- ・ ヒートアイランド現象の緩和、美しく潤いのある都市空間の形成、都市の低炭素化等の観点から建築物の緑化を実施するもの。多様な緑化資材の開発が進み複雑な形態や過酷な環境下での導入も可能となってきた。



「壁面緑化ビル事例」

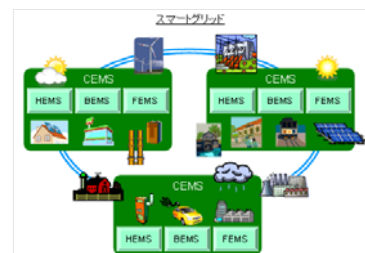
●エネルギー関連の取組み

再生可能エネルギーの技術例：バイオマス

- ・ 生物体を構成する有機物から酸化・燃焼などの化学反応を介して利用されるエネルギー。農業残渣などを利用したメタン発酵や木質資源を利用したバイオマスプラント（発電、熱利用）、処理場から発生する汚泥などを利用した取組みが進められている。

エネルギーマネジメントの技術例：CEMS

- ・ 地域における電力の需要・供給を統合的に管理し、地域全体の節電を行うスマートグリッドの中核となるシステムである。
- ・ BEMS、HEMS と連携し、電力消費をスマートメーターで管理しながら需要と供給を常に最適化させる地域のエネルギーを管理する。



「スマートグリッド、CEMS 概念図」

●交通関係の取組み

TOD 促進の技術例：パークアンドライド

- ・ 自宅から自家用車で最寄り駅やバス停へ行き、駐車後、公共交通を利用して都心部等へ向かうシステム。省エネ、低炭素等に効果がある。ICT 技術の導入で他の交通機関との連携も進んでいる。

省エネモビリティの技術例：EV カーシェアリング

- ・ 環境にやさしい電気自動車のシェアリングシステム。近距離少人数用の超小型モビリティの導入なども進められている。

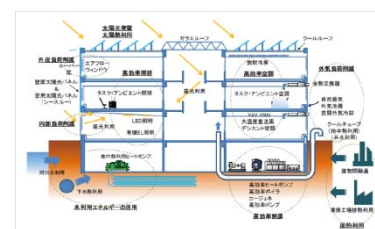


超小型モビリティ
「チョイモビ ヨコハマ」

●環境建築の取組み

省エネビルの技術例：ゼロエミッションビルディング

- ・ 高断熱、高气密等の建物省エネ化、高効率照明等の設備省エネ化、BEMS 等の統合制御による運用省エネ化等の取組みを通じて CO2 排出量ゼロを実現化する。
- ・ 各種環境技術の進展により近年施工例が急増している。



「ゼロエミッションビルディング概念図」

4) 供給処理・情報通信基盤を活用したまちづくりの実現化方策

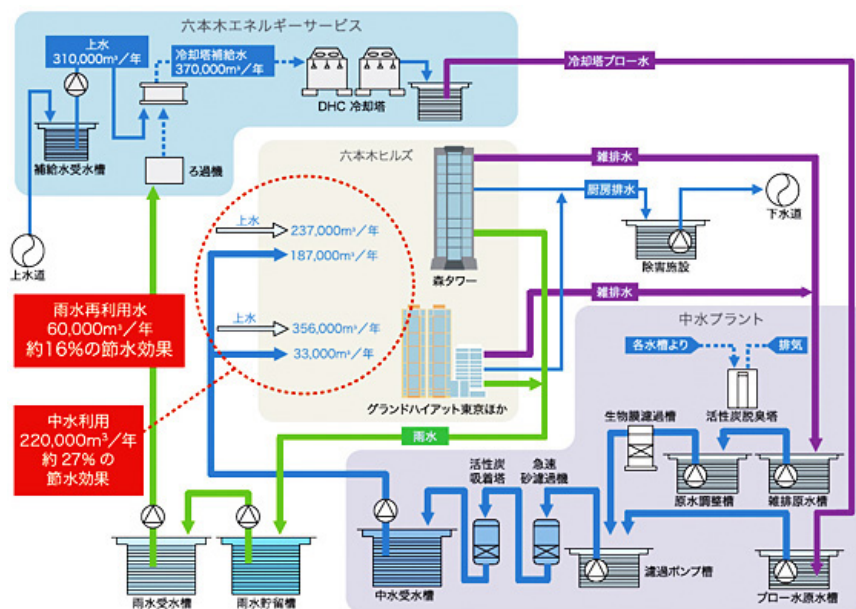
当地区において供給処理・情報通信基盤を活用した持続可能なスマートシティを実現していくためには、要素技術の導入に加え、それら取組みを企画・設計し、運営していく主体となるエリアマネジメント組織の設立が必要となる。

こうした視点から、エリアマネジメント組織は、地区の開発等に参画するマスターデベロッパーや立地進出した企業、教育機関、その他 NPO 法人等の地権者組織を構成員として、行政と連携の元で法人組織として組成する方法が望ましい。また、自らの活動として「地元の土地活用支援」や「緑の維持・管理」、「エネルギーマネジメント」、「タウンセキュリティ」等のまちの運営並びにインフラ管理に関する事業を展開し、継続的な資金調達を行う。

その他、「まちづくりガイドライン」の策定や運営、「各種イベントやコミュニティ活動の企画運営」といったソフト管理の取組み実施もあわせて実施する。

(参考)図 2-66 六本木ヒルズのエネルギー供給システム

出典：六本木ヒルズ HP



(参考)図 2-67 晴海トリトンスクエアのエネルギー供給システム

出典：晴海トリトンスクエアパンフレット



第三章 「全体計画の中間取りまとめ」に対する県民意見の聴取等

1. 県民向けレポート（PRパンフレット）及び商業フィルム作成

【仕様】A3変形、ポケットサイズのジャバラ折、5000部、4C両面

(1) 県民向けレポート（PRパンフレット） 表

普天間未来予想図 B面 入稿原稿

基地が返還される

沖縄中南部では、跡地を利用した“まちづくり”が始まっています。

すでに開発された返還跡地

沖縄中南部でこれから返還が予定されている跡地

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想

- 陸軍貯油施設跡1 原江タンク・ファーム跡地 (約16ha)
- キャンプ原江南側地区跡地 (約68ha)
- キャンプ瑞穂町跡地 (約152ha)
- 普天間飛行場跡地 (約481ha)
- 那覇港湾施設跡地 (約56ha)
- 牧港補給地区跡地 (約274ha)

まちが生まれ つながり… 都市としてひろがります！

大きな経済効果が生み出されている
※詳しくは、沖縄県向け「駐留軍用地の土地活用取組計画」についてをご覧ください。

まちがつながる

道がつながる

南北がつながる
東西がつながる
鉄軌道が走る

水と緑がつながる

海岸の水と緑がつながる
周回の水と緑がつながる

高度な都市機能を持つ **100万都市** になります

宜野湾を中軸に **都市がつながると…**

人が集まるまちだね!! **コンベンション機能の拡大**

第2滑走路ができる!

地権者も考えています

市民も考えています

これから多くのおみなさんの声を聞きながら… 未来の沖縄を考えた「沖縄21世紀ビジョン」に沿って、計画はどんどん進化していきます。

みんなが気になるまちだから みんなで未来を考えよう!

普天間未来予想図 検索

「普天間未来予想図」の動画や最新情報はこちらのサイトから

子どもたちも考えています

沖縄で働きたい人

沖縄で暮らしたい人

沖縄で学びたい人

沖縄の自然や文化・歴史が好きなん

沖縄で働きたい人

沖縄に企業や事業所を移したい人

沖縄で事業を興したい人

お問い合わせ— 沖縄県企画部企画課 跡地利用対策班 TEL: 098(866)2108 http://www.pret.okinawa.lg.jp/ite/kochi/atochi/index.html 宜野湾市基地政策部基地対策課 TEL: 098-893-4401 http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/kichitochitasakuka

谷折り

山折り

谷折り

山折り

表 4

【制作物】県民向けレポート（PRパンフレット）裏

普天間未来予想図 A面 入稿原稿

「緑の中のまち」をつくる

自然と歴史・文化の資源が残っているところだから…
普天間飛行場跡地は、自然や歴史・文化が残っている土地だから、この地をよく調べ…

残っている緑を活かす

昔から残っている林には、沖縄にしかない植物もあるかも。

歴史や文化を再発見する

琉球時代に王さまが歩いた道(釜松街道)や、琉球の暮らしを思い起こす町並みがあったらいいな。

起伏のある地形を活かす

海が見えたり、町が息張せる高台で暮らせたらいいな。

地下を調べ水の道を活かす

湧き水に結んでいる跡地の地下はどうなっているのかな？ 地下の水や洞穴を、うまく使えたらいいな。

大規模公園を中心とした「緑の中のまち」をつくる

「緑の中のまち」は…

- 再生可能エネルギーを取り入れた 環境に配慮したまち
- 環境保全と開発が共存する 特許可能な都市
- 創造力を高め 人が育ち 未来につながる

これらがひとつになって「特色のある環境」をうみだします

みんなの未来のまちだから

こんなまちにしようと考えています！

沖縄らしい「緑・水、歴史・文化」と国際的な「新しい都市」をひとつにしたまち

世界に誇れるまちになるといいね！

私たちがあじなになるころどうなっていたらいいかなあ

まち全体が緑の公園 (緑の中のまちづくり)

この配置は、ひとつの例です。

みんなの予想図 (中核の新たな発展につなげる大規模緑地遊歩道跡地利用計画(商業コンペ) 結果発表資料)

沖縄の自立の発展につながる

振興拠点ゾーン

- 医療・生命科学
- 環境・エネルギー
- リゾートコンベンション

国際協力・貢献

- 研究開発
- 広域防災など

人が集う 快適で魅力的な都市をつくる

振興拠点ゾーン

商業

- ショッピングモール
- ホテル・駅

利用

- 行政・教育・文化
- 医療・福祉 など

沖縄の名産品と合わせた風景と生活環境をつくる

住居ゾーン

環境

- 「旧集落」の空間再生

住居

- 多様なライフスタイル

普天間未来予想図

飛行場跡地

みんなが考えよう！

1996年「沖縄に関する特別委員会」SACOの最終報告で普天間飛行場の全面返還が合意されました。

「普天間飛行場の跡地」利用にむけて…沖縄県と宜野湾市は共同で取り組みをすすめる。

これまで 学識経験者や地権者の皆さん、県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒にどうしていくかを考えてきました。

2013年3月 これまでに集めた情報や調査結果を「全体計画の中間取りまとめ」として発表しました。

沖縄県 / 宜野湾市

谷折り

山折り

谷折り

山折り

表1

(2) コマーシャルフィルム (映像絵コンテ)

【仕様】 全編約 8 分、6 チャプター、ハイビジョン映像

PR 映像 コンテ 20140324

1

1996 年
「沖縄に関する特別委員会」
通称: SACO の最終報告で
普天間飛行場の全面返還が合意されました。

1 SE
ナレーション



沖縄県と宜野湾市は共同で
「普天間飛行場の跡地」利用にむけた
取り組みをすすめ、...



これまで
学識経験者や地権者の皆さん、
県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒に
「普天間飛行場の跡地」をどうしていくかを
考えてきました。



2013 年 3 月
これまでに集めた情報や調査結果を
「全体計画の中間取りまとめ」として
発表しました。



普天間未来予想図
飛行場跡地
『普天間飛行場の跡地利用計画案案に定めた全体計画の中間取りまとめ』から
2013年 沖縄県/宜野湾市



基地が返還される





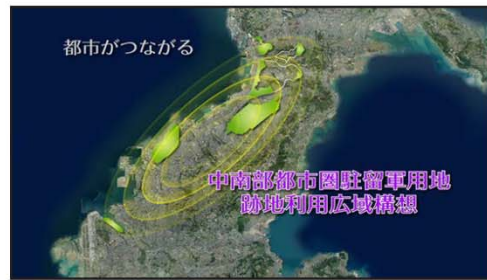
13



19



14



20



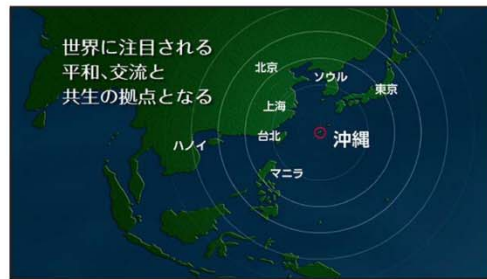
15



21



16



22



17



23



18



24



25



31



26



32

音楽 2



コーナー
最後まで



27



33



28



34

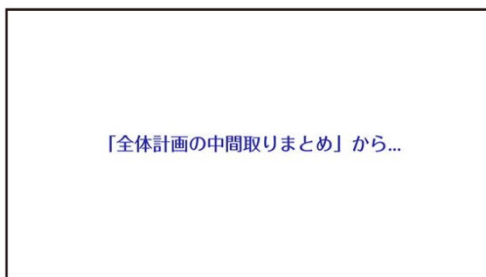


29



35

曲終わり



30



36



37



43

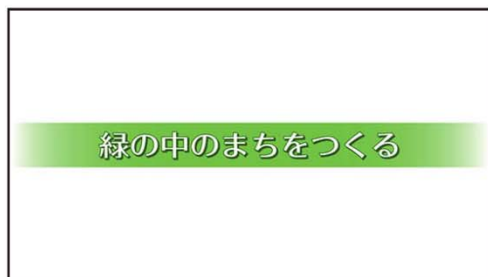


38

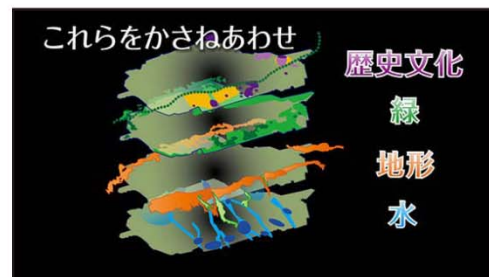
曲終わり



44



39



45

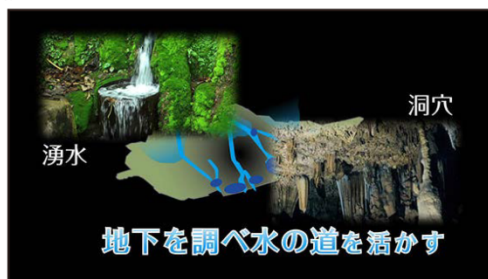


40

音楽 3
↓
コーナー
最後まで



46



41



47



42



48



49



55

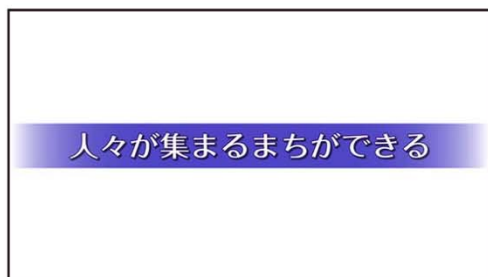


50

曲終わり



56



51



57



52

音楽 4

コーナー 最後まで



58



53



59



54

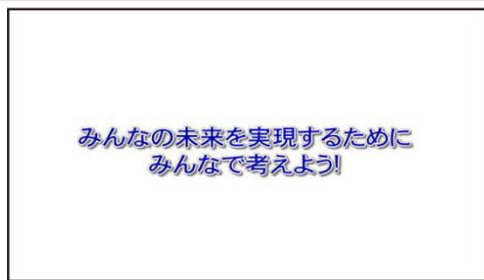


60

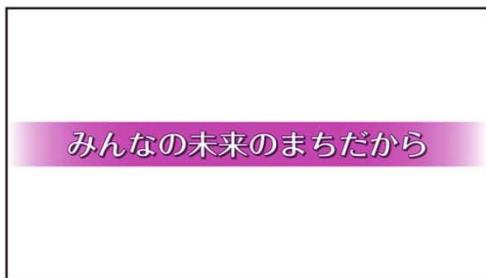


61

↓ 曲終わり



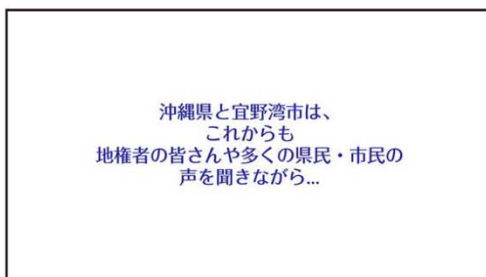
67



62



68

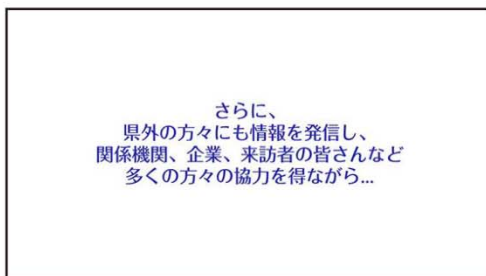


63

SE
ナレーション



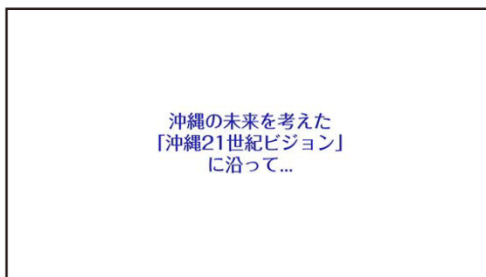
69



64



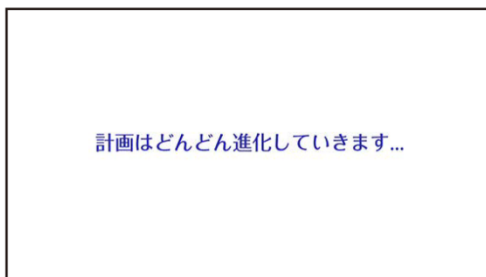
70



65



71



66

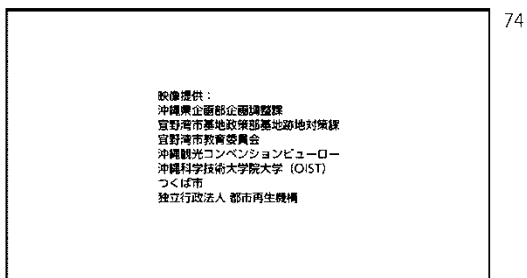


72

効果音
(クリック音)



73



74



75

2. イベント等での広報活動及び意見聴取

(1) PRキャラバンでの市民意見

項目	意見	年齢
①「緑を活かす」 について	・緑は多い方が良い	10代以下
	・ぼくはあきちにひろいろてんぶろをつくってほしいです きもちいいからです。(僕は空地に広い露天風呂を作してほしいです)	10代以下
	・自然公園を作ってアトラクションとかあっても良い。	10代以下
	・ひろば、こうえんをふやしてほしい。(広場、公園を増やしてほしい。)	10代以下
	・きちのあとちに、ゆうえんちを作してほしいです。(基地の跡地に、遊園地を作してほしいです。)	10代以下
	・基地内の緑は、可能な限り残してほしい。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・普天間の街道並木道を、もう一度再現してほしいですね。	40代、50代
	・出来るだけ緑を残した街づくりしてほしい。(42歳 会社員)	40代、50代
	・緑の多い公園をつくり、多くの人達が憩える場所にしてもらいたい。天久新都心のような街づくりにはほしくない。(40歳 会社員)	40代、50代
	・基地内には、緑が多く残っている所があると思います。(基地が)帰ってきたら大切にしてほしいです。遺跡も同様、保護が第一です。宜野湾市が自慢できる遺跡、ぜひ残してもらいたいです。緑はもちろんです。	40代、50代
	・地域の人々が気軽に集まれる広場と普小(普天間小)の近くに児童館をつくってほしい。	40代、50代
	・今あるとても大切な自然をつぶさないで！！(59歳 男性)	40代、50代
	・既存の緑地部分は、絶対に残すこと！！(60代 地権者)	60代以上
	・緑豊かな公園を作してほしい。	60代以上
・緑でマラソン・ジョギング・ウォーキング1周コース	60代以上	
・住宅地が少ないのに自然ばかりうたっても発展しない。だいたい沖縄県民は公園もきれいに維持していけなさそう	60代以上	
②「歴史や 文化を活かす」 について	・宜野湾市は緑の市としての街づくりがこれからも大切だと思います。	40代、50代
	・文化や緑が、今現在、どのように使われているかが、わからないので、意見のしようない。(70代 男性)	60代以上
	・基地に(土地は)取られ、宜野湾市は、緑も無い。歴史や文化も地中に基地の中！！早く県外(国外)に移設。地産地消、島の野菜を大切にしよう。	60代以上
	・歴史や文化を観光収入につなげてほしい。自分が観光に行くと史跡周りが楽しみだから(60代 女性)	60代以上
③「地形を活かす」 について	・みどりをふやす。	10代以下
	・大山側に眺望を活力とした、ホテル・展望台等を検討して見てはどうか！！(60代)	60代以上

④「水の道を活かす」 について	・洞穴を利用して、水の資源を増やしたり、観光地としていけばいいと思う。(10代 小学生)	10代以下
	・自然を大切に湧き水などしっかり大事にしてもらいたいですね。あまり色々なものを作らず、自然の中で子供達の遊ぶスペース作って欲しい。	20代、30代
	・人間の手で家を建てたり、開発をするだけではなく、虫も水も地球全てが共存できる街づくりを強く希望する。雨水が地面に染み渡り地下に落ち、水が溜まる。そういった自然とともに開発。	60代以上
⑤「町全体が 緑の公園」 について	・とても広い公園があったらいいなー。(3歳 男の子)	10代以下
	・セントラルパークみたいな街になれば素敵だと思います。緑も多く取り入れつつ、オシャレで国際的な都市にしてほしいと思います。	20代、30代
	・大規模な公園は必ず実現して欲しい。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・セントラルパークのように都市内に自然があり、県民の憩いの場となるとよい。(浦添市 20代 男性)	20代、30代
	・幼児からお年寄りまで利用できる、大きな公園を作って欲しいです。(宜野湾市 34歳 女性)	20代、30代
	・産業もちろん必要だが、緑・公園・歴史等も大切に開発してほしい。	40代、50代
	・緑や自然・文化を大切にしたい街づくりを希望。	40代、50代
⑥「産業を生み出す」	・環境に配慮した産業がほしい。(50代 女性)	40代、50代
	・ディズニーランドやユニバーサルスタジオ、テーマパークやカジノを建設し、観光客のみが入館できる施設、ホテル等、観光で潤える施設を作って欲しい。	40代、50代
⑦「都市をつくる」 について	・沖縄にディズニーを作してほしい。・動物園を増やして欲しい。	10代以下
	・ぷーるがほしい。ぜんぶただがいい。(プールが欲しい。全部タダ(無料)がいい)	10代以下
	・無かったら、映画館とマンション等を作って。	10代以下
	・モノレールをもっと長く延ばしてほしい。一定の場所からだけでなく、どこに住んでいても、移動を便利にしてほしい。！！(30代 女性)	20代、30代
	・交通機関がとても不便で、車の無い人(子持ちの主婦等)には、とてもつらい。モノレールや電車を！！(38歳 女性)	20代、30代
	・もっとたくさんアミューズメントパークを作って欲しい。モノレールをもっと延ばして欲しい。	20代、30代
	・暴走族が多し、宜野湾市。サーキット等。	20代、30代
・スポーツセンターなど、市民が使える施設がほしい。(50代 女性)	40代、50代	
・宜野湾スカイツリータワー(米軍タンク跡地に)のような建物を建てたり、やはり地形の自然を活かした案で進めなさい！(60代 男性)	60代以上	

⑦「都市をつくる」 について	・沖縄タワーを作って欲しい。	60代以上
	・駐車場の整備、嘉数高台含む。(70代)	60代以上
	・みんなが損しない街づくりを。緑や文化、いろいろ大切にしていけるのもいいけど、そこで損する人が出たらダメ！！ 11号線、いつ出来ますか？一体！？(地主 60代 男性)	60代以上
	・自転車に乗る機会を多く作らせてほしい(環境のためにも)。子供にも自転車のマナーを大人には同時に教えられる。サイクリングで地域を移動。	60代以上
	・出来る位の大きなコースを作って下さい(60代 男性)	60代以上
	・室内プールの充実。	60代以上
⑧「住まいをつくる」 について	・保育園などを子育ての設備がほしい(30代)	20代、30代
	・県内に基地は要らない。戦争はダメ。	60代以上
⑨「交通ネットワーク」 について	・ぎのわんまでモノレールをつないでほしい。	10代以下
	・モノレールつくってほしい(10代 女の子)	10代以下
	・沖縄全体にモノレールをつなげてください。	10代以下
	・まずは不発弾を全て撤去して、地下鉄や電車を作って欲しい。(小学6年生 女子)	10代以下
	・58号線を片側2車線に変えて、真ん中に電車を走らす。(21歳 男性)	20代、30代
	・交通渋滞の解消のため、南北方向の幹線道路が必要。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・基地はやめにして、返還して欲しい。モノレールを作って下さい。	20代、30代
	・車が混まない様に便利な道が出来ると良いです。	40代、50代
	・道が出来たら便利になる。(50代 女性)	40代、50代
	・宜野湾市にモノレールをお願いします。	60代以上
	・モノレールを宜野湾市にもつないで。・(宜野湾市)東側が寂れてきたので、筋トレ・プール施設を作って欲しい。	60代以上
	・真栄原から直行で行ける道路が出来るといい。(70代 女性)	60代以上
	・車の渋滞を緩和するため、ゆいレールを延長して下さい。早急に！！	60代以上
	・那覇から名護までモノレールが走るとうれしい。	60代以上
・宜野湾は交通的に良い位置にあるので、モノレールを延ばしてほしい。	60代以上	

⑩その他	・まぶやしょうつくて。(マブヤーショー作って)(3歳 男の子)	10代以下
	・沖縄に有名人が100人来て欲しい。・ディズニーランドがあってほしい。	10代以下
	・キョウリュウジャーが来て欲しいです。・おねがい。いろんなヒーローが来て欲しい。	10代以下
	・沖縄にディズニーランドを作ってほしい！！	10代以下
	・もっと食文化を推した祭りを！	10代以下
	・ディズニーランド作って(6歳 女の子)	10代以下
	・水族館や動物園とかあると良いと思う。本部町まで遠い。(宜野湾市 11歳 小学生)	10代以下
	・沖縄で絶対戦争をしないでほしい。みんなの平和が盗られるから。(小学5年生 男の子)	10代以下
	・遊園地を作って欲しい！(11歳 女の子)	10代以下
	・農業を活性化させる。	20代、30代
	・歴史・文化・健康・学園都市宣言等の方針を打ち出すことが先決。打ち出すことで先に進むが、打ち出してないことで、進めないように思います。	20代、30代
	・子供達が安心して住める街を作ってほしい。遊ぶ場所がほしい。	20代、30代
	・宜野湾市長は選挙前に基地についていろいろ言っていたけど、今は何もしてくれない。	20代、30代
	・早く基地が無くなるといい。	40代、50代
	・カジノ特区、経済特区。補助金に頼らない、経済の自立。	40代、50代
	・市長、もっと動いて！	40代、50代
	・公園・産業・都市・住居のすべてを発展させてほしい！ゆとりのある計画を。	40代、50代
	・(基地跡地を)普天間第二小学校の専用グラウンドにしてください。	40代、50代
	・平和を発信する街・教育。	60代以上
	・農地の拡大、じゃがいも・タマネギなど、県の食料自給率向上(70代 男性)	60代以上
	・目標はどこか！！夢ばかりいつまでも見ててはいかん！！夢は起きたら覚める！！しっかりとした目標を決めてからやってください。(60代 男性)	60代以上
	もうどうにもならないと思う。何度もやりました。「はい、検討します」じゃ、進まない。孫に土地は譲ります。(60代 男性)	60代以上
	・遊園地・テーマパークを使って欲しいです。(60代 女性)	60代以上
	・博物館・美術館など、大人も子供も同時に学べて楽しめる施設を作って欲しい。	60代以上
	・団地を作って欲しい。	60代以上
	・普天間宮後ろの洞窟を公開したらどうか。(70代 男性)	60代以上
・県内に基地は要らない。もちろん辺野古沖にも。	60代以上	

3. コンペ作品の分析

(1) 上位5作品における6基地との関係性と普天間飛行場における提案のポイント

コンペ上位5作品（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点）について、普天間飛行場とその他の返還予定となっている5地区との関係性について、また普天間飛行場については具体的にどのような提案がされているのか、を整理した。

整理に当たっては、先に分類した「自然」「都市」「産業」の3分野と「(仮称) 普天間公園の整備」「旧集落の再生」「並松街道の再生」の観点で整理した。

① 最優秀賞「万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現」

万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現

アジア諸国の重心に位置する沖縄は、かつてより、これら周辺諸国との交易のなかで、世界を相手に自立する精神—万国津梁—をちかかってきました。

21世紀に花開いた「アジアの時代」。沖縄の“固有の文化”、“豊かな自然”、“多彩な人材”を礎に—自立する交流展開の島—として生まれ変わります。

沖繩固有の自然を活かす

「沖繩の風土・伝統文化」の継承

「アジア諸国との交流」を促進

「経済競争力の優位性」を確立

新たな産業・文化を創出する

3つのネットワーク

- 都市ネットワーク
- 交通ネットワーク
- 環境ネットワーク

新しい沖縄の実現にむけた「3つのネットワーク」の構築

アジアの時代をリードする沖縄を実現するため、中南部都市圏の活力と魅力を高める3つのネットワークを提案します

都市ネットワーク

“4つの新都市拠点”を創る

- 各基地跡地の特性を活かし、4つの都市拠点を創出
- 広域行政中核を普天間に集約し、自立する沖縄を象徴（リージョナルコア）
- 地権者ニーズや社会経済情勢を鑑み、計画的かつ柔軟な土地利用計画を推進

交通ネットワーク

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

- 沖縄の顔となるLRTを軸にモータリゼーション、都市拠点の相互移動の利便性を高める
- 国道58号線へのLRTの早期実現とゆいレールとの連携強化をめざす
- 最先端テクノロジーによる高頻度運行の実現など、使いやすしいLRTの導入
- ライダー輸送の充実に伴い、利用者の利便性が向上

環境ネットワーク

豊かな亜熱帯庭園都市を育む

- 風土に根ざしたサステイナブルな環境のしくみを
- 地域特性を生かした沖縄ならではの緑の再生
- 新都市の緑地や既存の緑地をLRT沿道の緑化でつなぎ、緑のネットワークを創出
- 沖縄の気候風土に合った、パッシブで自立的なエコ・スマートシティを構築

課題認識

沖縄に対する

経済的な自立の必要性

- 第3次産業中心の産業構造の克服
- 雇用機会の創出と「失業率の改善」
- 付加価値産業の創成と住民所得の向上

中南部都市圏の環境改善

- 自動車依存からの脱却
- 都市圏への一極集中の脱却
- 都市による気候変動と都市空間の解消
- 都市内の緑地空間の回復と充実
- エネルギー自給率の向上

沖縄のポテンシャル評価

- 琉球王朝による交易文化
- アジアにおける地理上の重心
- 都市部の広大な基地跡地の活用
- 国際空港と港が近接して立地
- 日本の数少ない人口増加地域

中南部都市圏発展ビジョンの確立と基礎の先行着手

中長期ビジョンを確立し、基地返還を踏まえた交通インフラの先行整備を行い、街を育てていきます。

フェーズ1 計画 推進期	総合的な街づくり計画決定 (中長期ビジョン)
フェーズ2 始動期	第一期交通インフラ完成 (LRT・モーター・道路等諸の整備)
フェーズ3 創成期	基地跡地の都市圏整備 街開き
フェーズ4 発展期	街が再完成
フェーズ5 成熟期	亜熱帯庭園都市として成熟

作品提案者名：トラム&グリーン・リンケージ沖縄21

図 3-1 「万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現」 提案内容 (1/4)

“4つの新都市拠点”を創る

6つの基地を4つの都市エリアに再編。
新しく生まれる都市と既成市街地が連携した、個性あふれる都市ネットワークを実現します。



沖縄ゲートシティ スポーツ・文化交流 緑豊かなウォーターフロントを開く—那覇港湾

貴重な都心部の水辺空間を活用した沖縄の玄関口“観光交流拠点”と、典武山公園とが連携した“アジアのスポーツ交流拠点”



那覇市街地を快適な水辺都市空間へ

- 水辺エリアと那覇新心斎を「島の輪(国際通り)」と「島の核(セントラルパークとトリニジツバパーク)」でつなぎ、水辺都市として那覇を新たに再生します。

大規模スポーツイベント拠点

- 典武山公園とつながる国際基準の競技場「スポーツパーク」を整備し、アジア諸都市と連携するイベント等、スポーツ・ツーリズムを促進します。(1)
- ポードウォークや緑道広場を整備し、市民の健康増進を支援します。(2)

海辺立地を活かすクリエイション機能

- 潮水遊歩やマリナー、シーフードマーケットを組み込んだ複合観光商業施設を整備します。(3)
- ツーリズムの拠点として、文化・産業・自然を紹介するビクターセンターを整備します。

沖縄リゾートナショナルパーク 広域行政・伝統文化交流 新たな沖縄の中心をつくる—普天間

広域行政中枢機能や琉球ナショナルパーク、最先端の研究開発拠点の整備による自立する“沖縄の先導拠点”



島都機能をもつ水と緑の庭園都市

- 広域行政の中枢機能を移転集約し、那覇市への一箇集中を改善します。宜野湾市の行政サービス機能も集約します。
- 歴史資源を残し、緑に満ちあふれる都市ゾーニングによって、風格ある都市を醸成すると共に、基地周辺の都市環境の改善につなげます。

郷土の森となる琉球ナショナルパーク

- 沖縄固有の生態系の再生により、琉球時代の史跡の残る大規模森林公園を整備します。(1)
- 自然体験型のテーマパーク・キャンプや琉球文化のオーブリアクト、博物館で沖縄の魅力を発信します。(2)

産業振興ナレッジコア

- 地元大学と連携した国際的研究開発拠点を先導的産業研究拠点を創設し、次世代ビジネスの基礎を築くナレッジコアとします。

6つの基地跡地全体のマスタープラン策定 街づくりの基本方針

社会情勢に対する柔軟な土地利用計画

- 公共施設や交通インフラの先行整備
- 既成市街地と共に新市街地を再編整備

利用目的に応じた手法により計画の街づくりを推進

- 先導プロジェクト用地や公共施設用地は公的セクターが土地先行取得を行い、機動的な街づくりを推進します。
- 資産活用・自己所有等の目的に応じて換地ゾーンを区分します。
- 集約地や共同換地により、一定規模の開発街区を創出し、街づくり社会によるまとまった開発の誘導を図ります。



例：定期借地権を利用した管理運営型入居型

沖縄コミュニティビレッジ 環境・暮らし交流 健“幸”ライフを生み出す—桑江南・瑞慶覧・第一桑江

高台立地と気候風土を活かし、国際色豊かで教育・医療の充実した“暮らし創造拠点”



既存インフラを活かした街づくり

- 米軍病院を核とした地域基幹病院を整備し、基地内の米大宇をアジアキャンパスとして再整備。また、全寮制インターナショナルスクールを創設し、次代のグローバル人材の育成拠点とします。

「ゆいまーる」コミュニティづくり

- 子供から高齢者までみんなが主役となるコミュニティづくりと、スマートウェルネス産業(予防医療+産業+エコ)が連携した街づくり(健“幸”ライフ)をモデル化します。

沖縄エンターテインメントリゾート 産業・文化交流 アジアを感動と交易で結ぶ—牧港

既設文化施設と連携した“統合型エンターテインメントリゾート”と、“MICE・国際物流拠点”



沖縄のエンターテインメント拠点

- 「国立劇場おきなわ」と最先端のホール等が連携し、自然溢れる統合型リゾートから、新しいエンターテインメントを発信します。
- 新・旧のMICE拠点を連携させ、世界レベルのリゾートMICEを整備します。

※MICE: Meeting, Incentive, Convention, Exhibitionの4つのビジネス・セグメントの総称。

24時間対応のシー&エア国際物流拠点

- 機能性の高い空港や埠頭施設と、新設するコンベンション施設が連携し、グローバルなビジネス拠点を形成します。

図3-2 「万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現」提案内容(2/4)

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

LRTを軸に交通ネットワークを再構築し、活発な都市間交通を実現。沖繩の風景を感じる親しみやすい交通システムです。



LRTによる交通網の再構築

- 国道58号を活用してLRTを早期に実現
 - 西海岸バイパス開通で通過交通量の分散が見込まれる国道58号を軸に走行空間を確保し、鉄軌道を低コストに導入します。
 - 段階的に公共交通体系を整備します。第1期の相模～牧港の区間(8km)は、基地交通に関わらず早期に整備を完了します。中南部再編に先鞭をつけます。

既存交通体系と連携した直幹ネットワークの構築

- モノレールは直幹(牧港補給基地)と着年間へ延伸してLRTに接続し、高層バスは拠点を短縮します。
- 主要駅にはパーク＆ライド拠点を整備します。

急行と各停を組合せて迅速に目的地へ到達



自動車台数減少による交通渋滞の解消

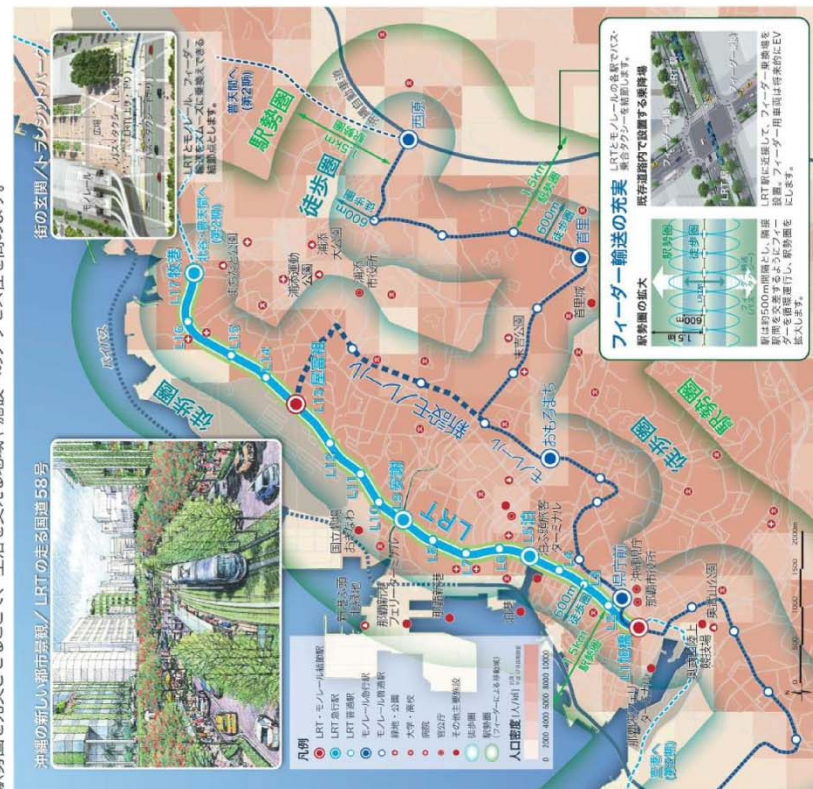
自動車台数減少により、物流の半減がバイパスに流れ、車両の約半分の1/4がLRTに置き換わると想定すると、朝夕ラッシュ時の1車線当たりの自動車台数は、半減すると予測されます。

軌道整備と運送の分離



都市の発展基盤となるLRTの先行整備(第1期)

第1期/相模～牧港(約8km)の間通により、人口高密度エリアをカバーし、駅周辺を充実させることで、生活を支える地域や施設へのアクセス性を高めます。



LRTが変えるライフスタイル

美ら海の風を感じるLRT
● 沖繩の美しい自然を感じて景色の中を走るLRTは、街並み景観の再整備、CO₂削減による環境改善など、自動車中心だったライフスタイルからの転換を促します。

- LRTやモノレールを活用して新たな観光拠点づくり
 - 空港直前のスタイルリッシュなLRTは、観光客だけでなく、地元住民や観光客からのアクセスを向上させ、新たな観光拠点を創出します。
- LRTに乗ってコサへ来るリーゼーターが増えた
 - 沖繩の特産物を使ったLRT専用メニューが人気となり、観光客だけでなく、地元住民からのアクセスも向上しています。
- 仕事のリタイアしてから家にこもりがちだったが外出が増えた
 - 手帳を渡すだけで移動がスムーズなLRTは、通勤や通学に最適で、高齢者や障害者からのアクセスも向上しています。
- 朝夕のLRT通勤は、友達と一緒で楽しい
 - 運行頻度の高いLRTを利用したLRT通勤は、通勤の合間にはLRTで買い物や散歩を楽しむことができます。

新しいLRTの4つの特長

- 駅-料金システム
 - 乗り換えに便利なエリアで、駅間の移動もスムーズにできる。LRT専用料金システムを導入し、乗客の利便性を向上させる。
- 安全・高層
 - 特設エレベーターとエレベーターを併用し、高層ビルや商業施設にアクセスしやすくする。
- パリアフリー
 - 乗客がスムーズに乗り降りできるように、エレベーターや階段の整備を行う。
- 定時・高頻度運行
 - LRT専用車両を投入し、高層ビルや商業施設にアクセスしやすくする。

図 3-3 「万国津梁の島 - 新しい沖繩の実現」 提案内容(3/4)

自然と共生する 亜熱帯庭園都市を育む

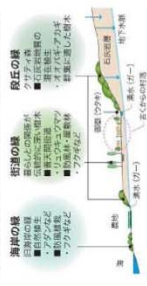
自然の生命力や循環のしくみを積極的に取り入れ、
亜熱帯の自然と、人々の生活を融合。
庭園のような景観をもつ低炭素都市を創出します。



沖繩の亜熱帯庭園都市を実現する3大要素

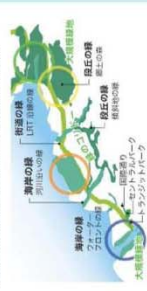
郷土の緑の再生

地域特性を生かした緑の再生により、沖縄ならではの豊かな景観（グンズンクス）と海沿いの緑、河川沿いの緑、段丘の緑（カサチサイ）を再生させます。



緑のネットワークの形成

基地跡地に緑地を創出。LRT沿線の緑化や河川沿いの緑の再生を推進することで、中南部をつなぐ緑のネットワークを形成します。



都市間を結ぶインフラネットワーク

基地跡地や周辺市街地を結ぶインフラネットワークの構築により、防災力を備えた先進的なスマートシティを実現し、自立性の向上と低炭素化を推進します。



市街地再編で創出する緑の環境ネットワーク—那覇都心

「沖繩ゲートシティ」の整備と「緑の都市軸」の延伸による
ウォーターフロントに開かれた新しい那覇中心市街地の再編



環境・防災拠点となる セントラルパークの創出

- 行政施設が移転した跡地は、水と緑に潤った緑の空間「セントラルパーク」として整備します。
- 目では捉えにくい敷地の「微地形」を分析し、沖縄の風土や環境を活かした庭園空間とします。
- セントラルパークには、再生可能エネルギーや地域の熱供給センターを整備し、災害時のエネルギー供給機能を備えることで、那覇市の防災性能の向上に寄与します。



市街地再編と「緑の都市軸」の創出

- 国際通りを那覇湾に延伸することで、都心とウォーターフロントを繋ぐ緑の都市軸を形成します。
- 緑の都市軸は、セントラルパークや緑のトランジットパーク（旧那覇バスターミナルとLRTの新しい交通結節点）など緑の拠点をあつなぎます。
- 都市軸としての国際通りは歩行者優先とし、豊かな緑陰空間の無むいでの街路とします。



環境のマネジメント手法 GID制度による環境管理・運営

那覇都心部の特定地域を環境改善地域（Green ID）として指定し、指定地は、地方自治体の環境自主規制制度に基づき建設を審査し、パーク及び周辺地区の緑の創出、環境改善に充当します。



自然の恵みを活かす「水と緑の庭園都市」—普天間

「緑のコモンスペース」から広がる「グリーンデッキ」と建物群、それらを包む「郷土の森」開閉に合わせて立体的に緑が増殖する庭園都市（NO NET LOSS）



水循環の保全

水源森林の再生や溜池により、地下水を涵養し、緑のコリドーを形成することで地下水脈を保全します。



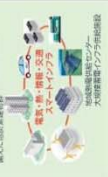
緑の立体的な連続

郷土の森〜グリーンデッキ〜コモンスペースの順に、丘陵部から海までの連続空間を形成し、生態系の遷移帯（エコトーン）となり得ます。



スマートインフラ

次世代社会を支えるスマートインフラを整備し、都市全体でエネルギーの最適化を図ります。



エコスマート建物群

立地環境に適したパッシブ建築手法と先進環境配慮技術を導入し、低炭素、自立的なエコスマート建物群を創出します。



郷土の森

郷土の森（旧那覇市ヨリパーク）に伝統的な村落を復元し、環境・歴史・文化を創出する象徴的な空間として整備します。



図3-4 「万国津梁の島 — 新しい沖繩の実現」提案内容(4/4)

■提案のポイント

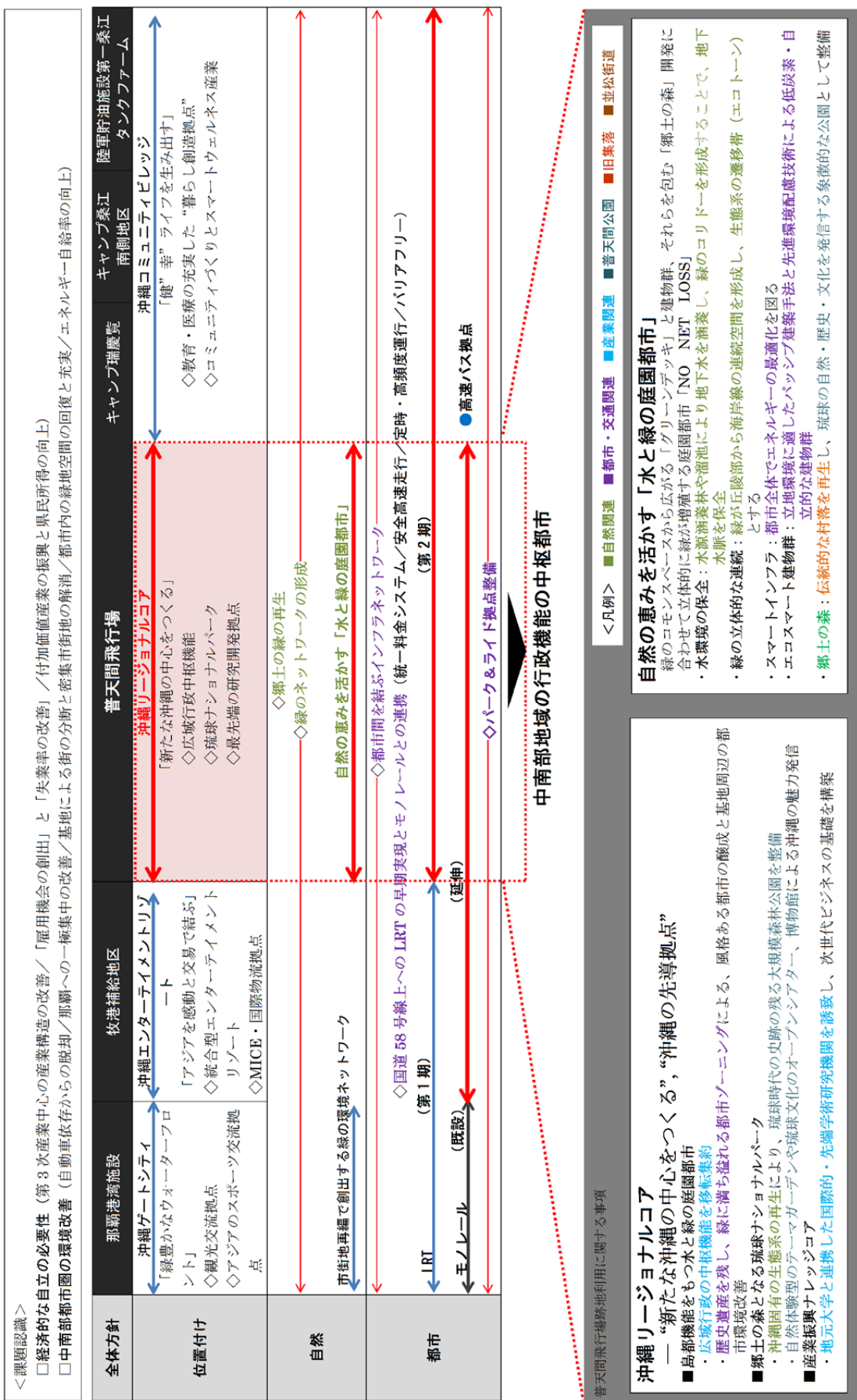


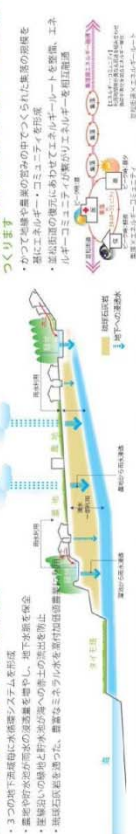
図 3-5 「万国神楽の島 — 新しい沖縄の実現」提案のポイント

グリーンファームシティ：アグリビジネスを核とした創造の場（生産）

豊かな地下水資源をもち、大規模なタイモ間に隣接する露天園地を併に、先端技術を活かしたグリーンファームシティを構築します



豊かな地下水資源を守りながら、農業に活用します



作品監修者名：日本設計十景設計

ブルーゲートシティ：医食同源と国際交流の場（交易）

既設計画が先行しており、埋立地・造成地、既存市街地の一体的利用が望まれる牧野地区と国際交流の場であるブルーゲートシティを構築します



水質浄化システムを核とした農業生産の創出



作品監修者名：日本設計十景設計

図3-7 「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」提案内容(2/4)